The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学附属図書館所蔵 赤木文庫(古浄瑠璃)目録
Author(s)	大阪大学附属図書館
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/20787
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

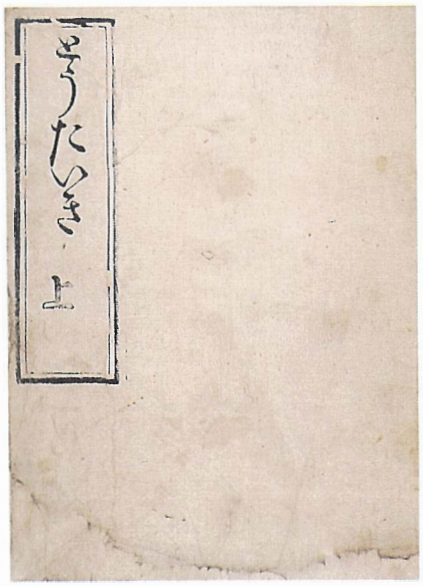
The University of Osaka

赤木文庫（古浄瑠璃）目録

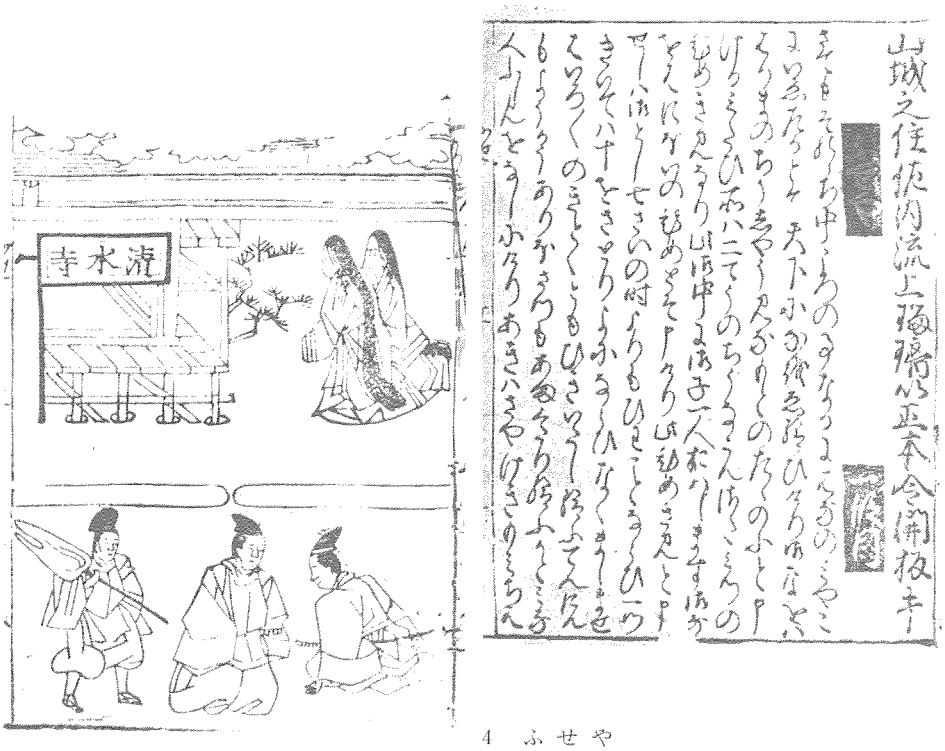
大阪大学附属図書館

1　とうだいき

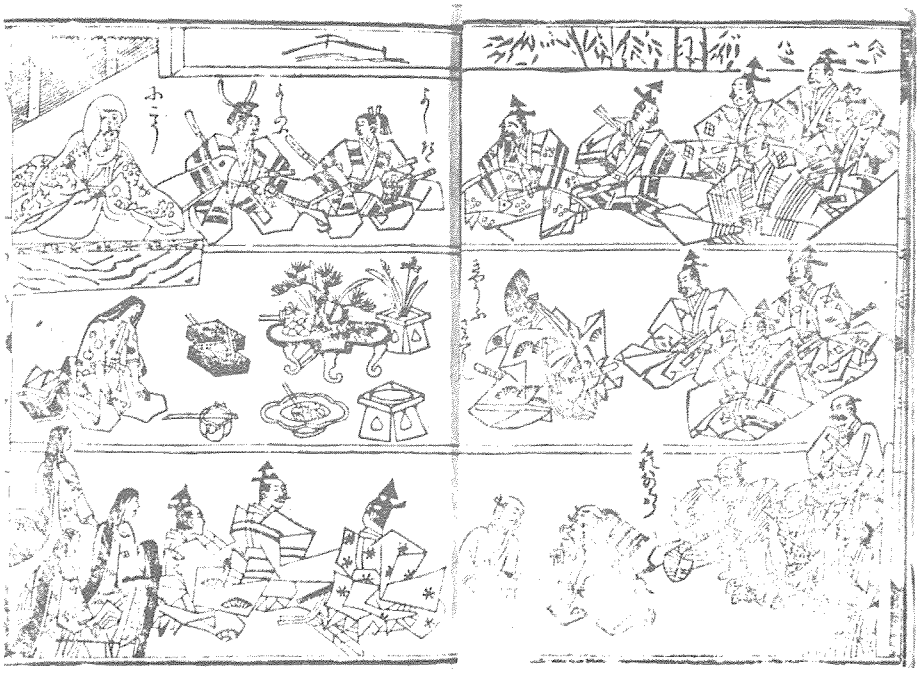
31　松浦五郎景近



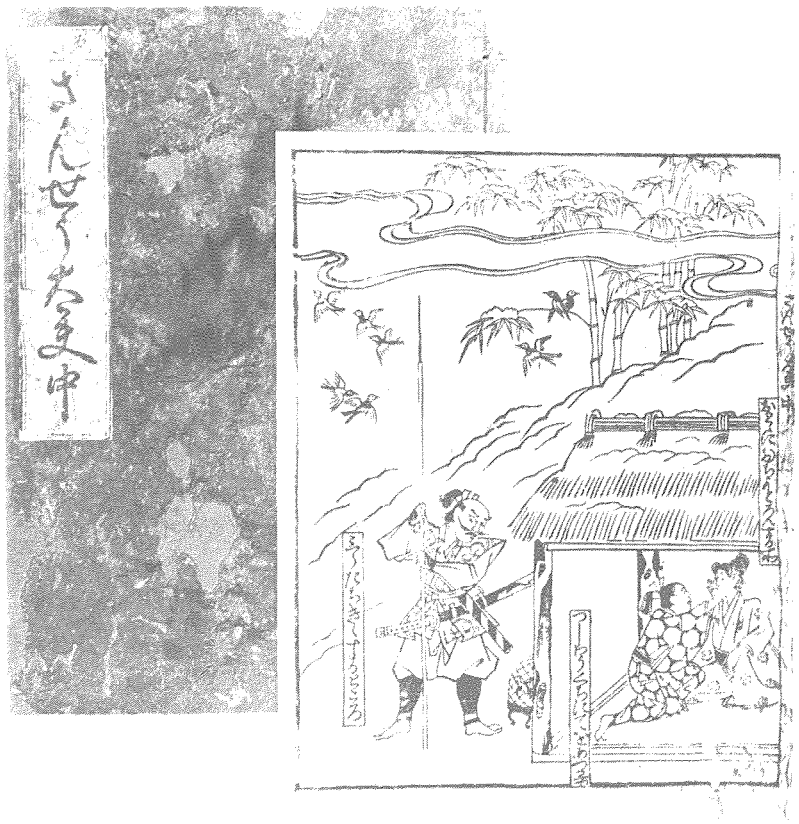
1　とうだいき



4　ふせや



6　にしきど合戦



96　さんせう太夫物語

98　〔さかたのきんひら〕

99　〔おとりくどき〕

序

永生の書にはその作者の誠の心がこもる。数世紀を経て今日に伝わる書物にはその所蔵者の愛着の心が脈打つ。本目録に収める赤木文庫旧蔵古浄瑠璃コレクションは、旧蔵者赤木文庫主横山重氏の畢生の収集にかかるものであり、氏の学問に対する姿勢が端的にうかがえる。

横山重氏の業績は、神道集の調査翻刻に始まり、説経正本・室町時代物語・古浄瑠璃正本等の調査収集、そしてその厳密な翻刻と、一貫した性格で貫かれている。それら善本を求めての永い御辛労とよろこびは、『書物捜索』二巻に達意の文章で綴られている。

五十年にわたるその捜索収集は、室町時代物語と古浄瑠璃・説経の二分野にとりわけ見事に結実し、氏の二大コレクションの行方はその御逝去後、学界の等しく注目するところであった。

このたび、本学教職員が結束して文部省大型コレクション計画に基づく収書計画を立て、幸い御遺族や関係者、文部省当局の格別の御理解を頂いて、その二分野の一、稀覯の古浄瑠璃・説経正本類のコレクションを入手することが出来た。人形浄瑠璃に古来因みの深い大阪にこれを迎え得たことは、まことに欣快にたえないところである。

その実現の間に、本学経理部、文学部国文学・芸能史演劇学・美術史・音楽学の各教室、教養部国文学研究室、さらにはサントリー株式会社、中尾堅一郎氏等多くの方々の御援助を頂いた。また、文学部信多純一教授には入手方について終始御尽力頂き、加えて赤木文庫に因みのある古浄瑠璃正本四点を御寄贈下さって本コレクション総点数を百点に整えられ、本目

録の作成にも御尽力頂いた。

稀有の質量を備えた本文庫の目録完成に当って、改めて以上の方々の御労苦御協力に深甚の謝意を表し、心から御礼を申し上げる次第である。

昭和六十年三月一日

大阪大学附属図書館長
三川　禮

凡例

一　本目録は、大阪大学附属図書館所蔵の古浄瑠璃を中心とする旧赤木文庫の書誌解題目録である。

一　その総数は百点、百十四冊であり、うち四点（32・39・44・71）は信多寄贈本である。

一　図書の配列は、浄瑠璃・説経・その他の順とする。また、浄瑠璃・説経では丹緑本・半紙本・中本をそれぞれ刊行年代順に並べた。

一　記載事項は、書名・装幀（書型・冊数・寸法）・表紙・題簽・匡郭・内題・所属・段数・刊記・板元・行数・丁数・板心・丁付・挿絵・節譜と備考からなる。

1　書名は、主として内題により、それを欠く場合は外題によった。また、不明の場合は〔　〕の中に、推定書名を記した。

2　書型は、大本・半紙本・中本などに分け、その寸法を記した。寸法は、縦・横の順でその単位は糎である。また、明らかに天地裁断や裏打など改装されたものについては、その旨を記した。

3　表紙は、原則として元表紙・替表紙の区別を行った。また見返しについては、特に必要な場合のみ記した。

4　題簽は、元題簽と後補の題簽の区別をし、共にその体裁を記して、なるべく現況を伝えるように努めた。

5　丁数は、原本の丁付にかかわらず、すべて実丁によった。但し、遊紙がある時は墨付の丁数による。

6　板心は、各丁の様式を可能な範囲で弁別分類し、各様式中もっとも整ったものを図版として掲出した。その縮小率は一率に原寸法の43%である。なお、字体や表記の相違は割愛した。

7　挿絵は、見開き・片面・部分図の区別をし、その数と挿絵のある丁数（実丁）を記した。

8　節譜は、正本に記されている文字譜については、これを極力全て示すように努めた。但し、加賀掾や角太夫・義太夫・佐渡七太夫豊孝等のように、独自の曲節が多く付せられているものについては、これを省略した。

9　備考には、該書に関する説明を補記し、主要な識語・挿紙等についてもここに記載した。

一　解説等の字体は、通行の字体を用いたが、内題・題簽・刊記等は元の表記に従い、その部分は「　」の中に入れて区別した。

一　本目録の要領は、『古浄瑠璃正本集』解題のそれを参考として作成した。

一　本目録作成にあたった者は、国文学研究室秋本鈴史・信多純一・時松孝文、附属図書館高木美代子の四名である。

昭和六十年二月十日

1　とうだいき

装幀　中形本。上下巻二冊。（上巻）一七・二×一三・三。（下巻）一七・一×一三・三。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　上巻に白紙半丁分の元表紙が残り、左上に直接題簽が刷られている。短冊形の重郭の中に「とうたいき　上」とある（口絵参照）。

匡郭　（上巻）一六・〇×一二・二。（下巻）一五・九×一二・〇。

内題　上巻は「とうだいき　一たんめ」、下巻には「とうたいき　四たんめ」とある。また上下巻共に、終丁表の刊年記の次に「燈臺記正本」という尾題がある。

所属　未詳。

段数　六段。（上巻）「とうだいき　一たんめ」、「とうだいき　二たんめ」、「とうたいき　三たんめ」。（下巻）「とうたいき　四たんめ」、「とうたいき　五たんめ」、「とうたいき　六たんめ」。

刊記　上巻下巻ともに、終丁表本文末に「寛永十年五月吉日」とある。

板元　未詳。上方板。

行数　十三行。

丁数　（上巻）元表紙半丁、本文十二丁。（下巻）本文十四丁。

柱刻　綴目付近上方に「上（下）」、下方に丁付。

丁付　上巻「一…九、□…□」。下巻「一…十四」。

挿絵　十三頁分（見開き二、片面九）。（上巻）二オ、四オ、六オ、八オ、十一オ。（下巻）二オ、二ウ―三オの下部、三ウ―四オの下部、四ウの下部、九オ、十三オ。ただし三ウ―四オと四ウは三頁分で一図をなす。丹・緑の筆彩色。

絵師　未詳。

節譜　なし。

備考　本書は刊年の判明する古浄瑠璃正本としては現存最古のものであり、『古浄瑠璃正本集　第二』の附録一に採用されている。ごく初期の元表紙が残る点でも貴重な本であり、この形式を持つものとしては、本目録の二番の『ちうしやう』と、説経『をぐり』の零葉（『説経正本集　第二』解題参照）、それに原本が失われたと考えられる、寛永二年刊の横型丹緑本の『たかたち』が知られるだけである。

また『とうだいき』には、本書をもとにした慶安三年板も残るが、その本文・挿絵との対比から本書の古形がより明らかとなる。慶安板が若狭守正本であるところから、横山重氏は本書を若狭守の左内時代の正本かとされている。

2　ちうしやう

装幀　中形本。上巻一冊。一九・五×一三・五。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　白紙半丁分の元表紙が残り、左上に直接題簽が刷られている。短冊形の郭の中に「□はし□」とある。その右側には「大はし中将　上」と墨書。

匡郭　一七・六×一一・八。

内題　「ちうしやう」。下に「一たんめ」。

所属　未詳。

段数　上巻の四段が残る。「ちうしやう　一たんめ」…「ちうしやう　四たんめ」、と各段の始めに記す。また段が変わるごとに、丁を改めており、一段目の終りだけには「一たんめ終」とある。

刊記　なし。

板元　未詳。上方板。

行数　十二行。

丁数　表紙半丁。本文十五丁。

板心　中央に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、□、□、□、五…十五」。

挿絵　五頁分（片面五）。三オ、六オ、八オ、十一オ、十三オ。丹・緑の筆彩色。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第一』の十二番に採用された本である。本書には刊記を欠きその刊行年は明らかでないが、横山重氏は右書解題において、板式・書体の古風なこと、書型・匡郭の大きいこと、行数の十二行と少ないこと、改頁のあり方、古い型の元表紙を備えていること等々の理由を挙げ、寛永初年の刊行と考えられた。最近渡辺守邦氏が紹介された寛永初年の『ひしやもんのほんち』零葉（『文学』昭58・4「寛永時代の出版事情」）とその形式が酷似しているところからも横山説は妥当と考えられる。その意味では本書は現存の古浄瑠璃正本としては、もっとも古板に属するものとなる。

3　こ大ぶ（甘楽太夫）

装幀　中形本。下巻一冊。一七・二×一二・八。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。「かんら太夫　後半」と墨書した紙を表紙の左上に貼る。

匡郭　一五・八×一一・二。

内題　「こ大ぶ」。下に「四たんめ」。

所属　未詳。

段数　下巻の三段が残る。「こ大ぶ　四たんめ」、「こ大ふ　五段目」、「こ大ぶ　六段目」と、各段の始めに記す。「四たんめ」のみは、二行分で大きく記されている。

刊記　終丁表本文末に「寛永拾八年五月吉祥日」西洞院通長者町九兵衛板」とある。

板元　京、九兵衛。

行数　十四行。

丁数　十丁半。

板心　上方に「コ」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「下一…下十一」。

挿絵　三頁分（片面三）。二オ、六オ、十オ。丹・緑の筆彩色。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第一』の八番に採用された本である。正本集では前島春三氏蔵本となっていた書であり、旧刻浄瑠璃本外題目録に挙げられた二十七種の中の一つで、上下二巻の内の下巻だけが残る。

四段目途中まで古い時期の書入れがあり注目される。またこの期の他本に較べて、小ぶりであり匡郭も小さくやや特異である。なお、刊記の「九兵衛」とある左上に「さうしや」と墨書されている。

4　ふせや

装幀　中形本。上巻一冊。一八・五×一二・八。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・五×一一・五。

内題　「ふせや」。下に「一段目」。共に陰刻。

所属　初丁、第一行に「山城之住佐内流上瑠璃以正本令開板畢」とある。左内か左内一派の正本。（口絵参照）。

段数　上巻三段。「ふせや　一段目」、「ふせや　二たんめ」、「ふせや　三たんめ」と、各段の始めに陰刻で記す。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十四行。

丁数　七丁。落丁本。

板心　上方に「ふせ」中程に「上」とあるもの（一・二・五丁）。上方に「ふせ上」とあるもの（三・四・六・七丁）の二種。各丁とも下方に丁付。

丁付　「一…七」。

挿絵　二頁分（片面二）。二オ、五オ。丹・緑の筆彩色。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第一』の十五番に採用された本である。旧刻浄瑠璃本外題目録の最後に掲出された本で、他の本と同様薄茶のやたら縞の入った表紙が付けられている。上下二巻の上巻のみで、しかも巻末に欠丁があるが、「佐内流上瑠璃」とある事や、段数を陰刻で記す等の特異な点においても貴重な本であるといえる。

5　たむら

装幀　中形本。上下合一冊。一五・八×一一・三。改装。

表紙　元表紙。黒地に雷紋つなぎと牡丹の空押。

題簽　元題簽。無郭の紙に「たむら」と大きく記して、表紙左上に貼る。

匡郭　一四・九×一〇・二。

内題　「たむら」。内題の前に「江戸伊勢嶋宮内正本」とあり、内題下に「一たんめ」。

所属　伊勢嶋宮内。

段数　五段。（上巻）「江戸伊勢嶋宮内正本」たむら　一たんめ」、「たむら　二たんめ」。（下巻）三段目巻頭欠。「たむら　四たんめ」、「たむら　五たんめ」。各段の始めの行に以上のように記す。但し上巻の始めの二行は、三行分を使って大きく記す。

刊記　下巻の終丁表本文末に「慶安三年八月吉祥日」西洞院通長者町　さうしや」九兵衛□（板カ）」とある。上巻の終丁は欠けていて刊記は不明であるが、僅かに残る綴目の破片に「祥日」とみえる。

板元　京、さうしや九兵衛。

行数　十四行。

丁数　十二丁半。上巻七丁、下巻五丁半。

板心　上下巻とも上方に「たむら」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　上巻「□、□、□、上四…上六、□」。下巻「□、□、下三、下四、□、□、□」。

挿絵　五頁分（見開き二、片面一）。（上巻）二ウ―三オ、六ウ。（下巻）四ウ―五オ。丹・緑の筆彩色。

絵師　未詳。

節譜　「キリ」だけある。句切はない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第二』の二十九番に採用されている本である。上巻の巻末と、下巻の巻末には大きな破損があり、綴じ目の破片が残るだけである。但しこの破損分を含めても、なお一丁分程度が落丁していると考えられる。また乱丁も見られ不完全の本ではあるが元題簽が残り、この種の貼題簽のある書としては現存本中もっとも古い書であろう。

6　にしきど合戦

装幀　中形本。一冊。一九・二×一四・〇。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　重郭。外側一八・四×一二・八。内側一八・〇×一二・五。

内題　「にしきど合戦」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。「初段」、「二たん目」、「三たんめ」、「四たん目」、「五たんめ」、「六たん目」、と各段の始めの中央に記す。初段のみは下方。

刊記　終丁裏本文末に「右此にしきど合戦は直の正ほんをもつて」うつし令開板者也」承應四年」初春吉旦」作者　岡清兵衛重俊（「重俊」の朱印記）」御成町」はんぎや　又右衛門板」とある。

板元　江戸、はんぎや又右衛門。

行数　十四行。

丁数　二十四丁。

板心　上方に「にしき」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…廿四」。

挿絵　十頁分（見開き四、片面二）。三ウ―四オ、八オ、十一ウ―十二オ、十五オ、十九ウ―二十オ、二十二ウ―二十三オ。

絵師　未詳。

節譜　「三重」だけある。句切はない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第四』の七十五番に採用されている。江戸板で刊年の判明する最も古い正本であると共に、作者名の残る最古の本でもある。また匡郭が重郭になっている点、挿絵の特異な点でも、珍しい書である。

7　みはら物語

装幀　半紙本。一冊。二一・五×一六・五。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　二〇・〇×一五・一。

内題　「みはら物語上」。上に重郭で「第一」。

所属　未詳。

段数　六段。「第一」みはら物語上」、「第二」しろぜめの事」、「第三」みはらの城らくじやうの事」、「第四」みだひわかぎみ道行之事」、「第五」とうせん寺そにん付タリさいこの事」、「第六」國平ちりやくわかきみ世に出給ふ事」、と各段の始めに記す。「第一」…「第六」はすべて重郭。

刊記　終丁裏本文末に「万治二年三月吉日　山本九兵衛板」とある。

板元　山本九兵衛。上方板。

行数　十四行。

丁数　二十九丁。

板心　柱題はなし。丁付は十八、十九丁のみにあり、それ以外の丁は綴目付近に出す。板心の形式は一種。

丁付　「上二…上十五、〇、下二、下三、〇、〇、下六…下十五」。〇部分にはじめから丁付を入れていない。その内、「下四下五」に当る部分は板心下方にそれぞれ「四」「五」とある。

挿絵　十三頁分（見開き六、片面一）。二ウ―三オ、五オ、八ウ―九オ、十三ウ―十四オ、十六ウ―十七オ、二十一ウ―二十二オ、二十七ウ―二十八オ。

絵師　未詳。

節譜　三重、上、ふし、九つゆり、おくり三重、へ。句切はない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第三』の七十三番に採用された本である。この書は古浄瑠璃の正本としては、丁数も多く、文字も大きい。また漢字に振仮名が多く付けてあり、挿絵の中にも説明の科白を多くいれてあるところから、本目録九十六番の『さんせう太夫物語』と同様の読物的な性格を強く持つ本といえる。

8　御館権太郎

装幀　半紙本。一冊。二三・〇×一七・〇。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　二〇・二×一五・二。

内題　「御舘權太郎」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。「御舘權太郎　初段」、「みたち權太郎清平　二段目」、「みたちの權太郎清平　三段目」、「みたち權太郎清平　四段目」、「みたちの權太郎清平　六段目」と、各段の始めに記す。五段目標目が欠けているが、元来五段目の「五」を「四」と改めたものであって、実際に欠けているのは四段目の標目部である。

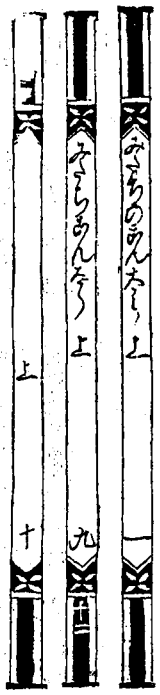
刊記　終丁裏本文末に「太夫正本」とあり、次の行に「萬治三年九月吉辰日」とある。

板元　未詳。上方板。

行数　十六行。

丁数　十八丁。落丁本。

板心　上方に「みたちのこん太郎上」（一…九丁）、「みたちのこん太郎下」（十二…十八丁）。十・十一丁の柱題は削られている。下方に丁付。板心の形式は三種。イ（一…八、十二…十八丁）。ロ（九丁）。ハ（十・十一丁）。



丁付　「一…十、十二、十二、十四…十九」。

挿絵　十一頁分（見開き五、片面一）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八ウ―九オ、十一オ、十三ウ―十四オ、十六ウ―十七オ。この中、八ウ―九オは見開きの一つの絵ではなく、各々別の絵である。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切は白丸点と黒丸点を混用。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第六』の百三十二番に採用された本であり、この続篇が『秀平三代記二日目』（『古浄瑠璃正本集　第二』所収）となる所から、『秀平三代記』の初巻に相当すると考えられる。本書は万治三年の刊記を持つが、柱や段数表記からみても、万治板の二丁（十・十一丁）を捨て、一丁分新刻（現在の十丁）して刊行した本である事が判る。

9　義経記初巻（伏見常盤）

装幀　半紙本。一冊。二一・五×一五・九。

表紙　元表紙。黒無地。

題簽　元題簽。上段に「義経記」初日」と二行、界線をおいて「伏見常盤」と大字で出し、左側に「大□掾藤原貞則」とある。さらに界線をおいて下段に「ふ屋町通」せいくわんじ」下ル丁」八もんしや」八左衛門」と五行。

匡郭　二〇・〇×一五・〇。

内題　「義經記初巻」。

所属　大和少掾藤原貞則。

段数　六段。「第一」あくげんた都へ上り給ふ事」、「第二」あく源太さいごの事」、「第三」よりともいつへるざいの事」、「第四」ときわ六はらへめざるゝ事」、「第五」うしわかくらま入の事」、「第六」かゝみのしゆくがうだうの事」、と各段の始めに記す。

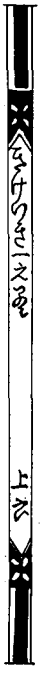
刊記　終丁表本文末に「万治四」とのみあり、以下破損。

板元　京、八もんしや八佐衛門。

行数　十六行。

丁数　十七丁半。

板心　上方に「きけいき一之巻」、下方に丁付。板心の形式は一種。



丁付　「上二…上十、下二…下五、下七…下十、□」。

挿絵　十一頁分（見開き五、片面一）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ、十四オ、十六ウ―十七オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　「三重」だけがある。句切は黒丸点。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第三』の七十四番に採用された本である。内題　からも判るように、七巻物の『義経記』の初巻に相当する。第五のはじめに半丁の落丁があり、終丁オも少し欠破している。

また本書は八文字屋板の六段本であるが、万治三年極月には同じ『義経記』が山本九兵衛からも刊行されており（水谷目録）、現在残る山本板の四之巻をみると題簽や板式は本書によく似ているが、五段本であるという相違もみられる（秋本鈴史　「語文」四十三輯「金平浄瑠璃成立の基盤」補注参照）。

10 〔ぼん天こく〕

装幀　半紙本。一冊。二二・三×一六・五。改装。

表紙　元表紙。黒地に卍つなぎの空押。

題簽　欠。

匡郭　二〇・四×一五・〇。

内題　なし。第一丁表の最初には「第一ぼん天こくよりひめみやをり給ふ事」とあり、これは初段の標題である。

所属　未詳。

段数　六段。「第一ぼん天こくよりひめみやをり給ふ事」、「第二たいりより中将殿へ取かけ申事」、「第三みかどよりなんだい二色々の物御らん有事」、「第四ばらもんろうをやぶり并姫宮うばい取」、「第五ほん天王ぢひつの判并中納言道行の事」、「第六ばらもんさいこ并ふうふ神二いわう事」、と各段の始めに記す。但し、第一と第四は、二行分を使って大きく記し、第四は十オの初行から始まる。

刊記　終丁表本文末に「寛文元年八月吉日　山本九兵衛板」とある。

板元　山本九兵衛。上方板。

行数　十六行。

丁数　二十丁半。

板心　上方に「ほん天」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「上二…上十、下二…下十、下十、下十二、□」。

挿絵　十五頁分（見開き七、片面一）。一ウ―二オ、二ウ―三オ、五ウ―六オ、八オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ、十五ウ―十六オ、十九ウ―二十オ。

絵師　未詳。

節譜　「三重」だけがある。句切は黒丸点。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第五』の九十七番に採用された本である。本書は古浄瑠璃の正本であるが、『梵天国』には説経の正本もあり、本文庫にも三本の説経正本がある（目録番号七十七番、九十番、九十五番）。

11　熊坂長はん

装幀　半紙本。一冊。二一・五×一六・二。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は「熊坂長はん」と墨書した緑色の模様入りの紙を、表紙中央に貼る。

匡郭　一六・七×一一・九。

内題　「熊坂長はん」。下に「初二段」。

所属　未詳。

段数　形式的には六段であるが、実質的には三段。「初二段」、「三四段」、「五六たんめ」と各段の始め下方に記す。

刊記　終丁表本文末に「寛文二年正月吉日　開之」とある。

板元　未詳。

行数　十四行。

丁数　十丁半。

板心　上方に「くまさか」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「二…十一、□」。

挿絵　十一頁分（見開き五、片面一）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、四ウ―五オ、六ウ―七オ、八ウ―九オ、十ウ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第八』の百五十番に採用された本である。匡郭の大きさからみて本来は中本であった可能性がある。また段数表記や挿絵の多さ（全十丁半の内、五丁半が挿絵）から考えて、浄瑠璃正本の形をとった絵本ともみることができる。寛文二年の刊記があるが、或いは後印本か。

12　月界長者

装幀　半紙本。一冊。二二・〇×一六・二。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　二〇・一×一四・八。

内題　「月界長者（つきかいちやうじや）」。上に「第一」。

所属　未詳。

段数　六段。「第一」月界長者」、「第二」まなげだうてつはにうたるゝ事」、「第四」月かいろうしやゞみたい所ちうする事」、「第五」月かいさいごゞはくさい国へ生れいで給ふ」、「第六」吉すけとんしゞよみかへりぐわんくはう寺こんりう□」と各段の始めに記す。但し、第一と第四は、二行分を使って大きく記し、第四は十一オの初行から始まる。また、第三は欠破のため不詳。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十六行。

丁数　二十丁半。但し欠破、落丁がある。

板心　上方に「くわつかい」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　汚損のため、判然としない。

挿絵　十二頁分（見開五、片面二）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八オ、八ウ―九オ、十二ウ、十五ウ―十六オ、十九ウ―二十オ。十二ウに続く挿絵が落丁。

絵師　未詳。

節譜　ふし、いろことは、ことは。句切は一部に黒丸点。

備考　『古浄瑠璃正本集　第五』の九十八番に東京博物館本が採用され、その解題に「寛文二年板の元刻本」として、本書が紹介されている。本書は破損の多い本で、第一丁の表裏に大きな欠破、十三オと最終丁の半丁が落丁、他にも小破が多くみられる。

13　いし山もんだう

装幀　半紙本。一冊。二二・〇×一五・五。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一七・〇×一二・三。

内題　「いし山もんだう」。

所属　未詳。

段数　六段。但し段名は記していない。各段の始めと考えられる所に、「いし山もんだう」、「かけなついくさの事」、「のぶちかさいこの事」、「はなものぐるひ」、「めいしよづくし」、「かけなつくびきらるゝ事」、と記されている。但し、「いし山もんだう」と「はなものぐるひ」は二行分を使って大きく記し、「はなものぐるひ」は十オの初行から始まる。

刊記　終丁裏本文末に「寛文貳年壬寅七月吉日　西沢太兵衛板」とある。

板元　西沢太兵衛。上方板。

行数　十四行。

丁数　十九丁。落丁本。

板心　上方に「いしやま」「いし山」「石山」。但し、十四、十七…十九丁は「花」。下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一…十七・十九丁）。ロ（十八丁）。

丁付　「一…七、九…二十」。

挿絵　九頁分（見開き四、片面一）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八オ、十一ウ―十二オ、十五ウ―十六オ。

絵師　未詳。水谷不倒氏のいわれる「他我身之上」系の画家ヵ。

節譜　下ふし、ふし三重、　地、ことは、あたるいろことは、いろことは、なきふし、くり上、いろをつふし、地ことは、うたふし、あたことふし、ゆり、はる、をくり、上をん、下をん、いろ、いろ地、地ふし、をつふし、色あたる、あたるいろ、下、地色ことは。句切は白丸点と黒丸点を混用。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第三』の六十一番に採用された本である。匡郭の大きさからみて、本来は中本であった可能性がある。第八丁が落丁。

14　頼義金剛山合戦ゝひやうぶ物語

装幀　半紙本。一冊。二一・八×一六・二。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は東北大本の題簽を模して墨書した紙を、表紙左上に貼る。上に「新板」、中央に「金剛山合戦」と大書し、左に「天下一大和少掾藤原貞則正本」と細書する。

匡郭　二〇・〇×一四・八。

内題　「頼義金剛山合戦ゝひやうぶ物語」。上に「第一」。

所属　未詳。

段数　六段。「第一」頼義金剛山合戦ゝひやうぶ物語」、「第二」しんわう御むほんゝよりよしうつての事」、「第三」ため宗こんがうせんの物語ゝ四天王ゆう力」、「第四」八まんあらはれいで竹みつをたすけ給ふ」、「第五」明神しんたくゝ頼義ようちの事」、「第六」しんわういけとられ給ふゝ頼義かいぢんの事」、と各段の始めに記す。但し、第一と第四は二行分を使って大きく記し、第四は十一オの初行から始まる。

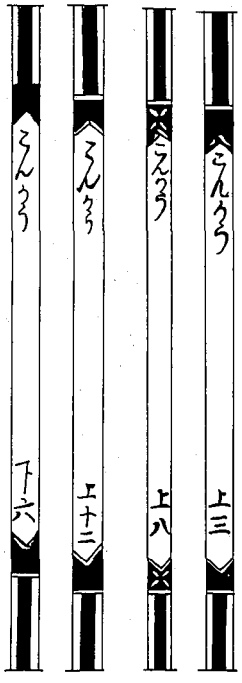
刊記　終丁裏本文末に「寛文三癸卯年正月吉日」とある。

板元　未詳。上方板。

行数　十六行。

丁数　十九丁。

板心　上方に「こんかう」（一…十八丁）、「かちきん」（十九丁）。下方に丁付。板心の形式は四種。イ（一…四、七…九、十一・十二・十五・十七丁）。ロ（五・六・十三・十六丁）ハ（十・十八・十九丁）。ニ（十四丁）。



丁付　「上三、四、上五…上十二、下三…下九、十、下十□」。

挿絵　十一頁分（見開き五、片面一）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八ウ―九オ、十二ウ―十三オ、十五ウ―十六オ、十八オ。彩色加筆あり。東北大本の十八ウ―十九オの見開きの挿絵二頁分を省略。

絵師　未詳。

節譜　「三重」だけがある。句切はない。

備考　『金平浄瑠璃正本集　第一』の十九番に、東北大本が採用されている。本書は東北大本と同板本であるが、東北大本の挿絵一丁分が省略されている。

15　大友のまとり

装幀　半紙本。一冊。二二・七×一六・六。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は表紙に「浄瑠璃大友　のまとり」と墨書。

匡郭　二〇・二×一四・九。

内題　「大友のまとり」。上に「第一」。

所属　未詳。同板の国会図書館本は、題簽に伊藤出羽掾正本とある。

段数　五段。「第一」大友のまとり」、「第二」かねみちゆうりき并がんせいさいごの事」、「第三」まさみち討死并かねみちおちらるゝ事」、「第四」かね道ちりやく并いけとられけんをふく事」、「第五」まとりさいご并かね道將軍づかさを下さるゝ事」、と各段の始めに記す。但し、第一と第四は二行分を使って大きく記し、第四は十三オの初行から始まる。

刊記　終丁表本文末に「寛文三癸卯年二月吉日」とある。

板元　未詳。国会図書館本は八文字屋板。

行数　十六行。

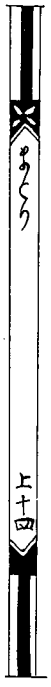
丁数　十九丁半。

板心　上方に「まとり」、但し一丁のみ「大とも」。下方に丁付。板心の形式は四種。イ（一・九丁）。ロ（二…七、十・十一・十三…十七丁）。ハ（八・十八…二十丁）。ニ（十二丁）。

イ

ロ

ハ

ニ


丁付　「上三…上十四、下三…下十□」。

挿絵　十三頁分（見開き六、片面一）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八ウ―九オ、十一オ、十四ウ―十五オ、十六ウ―十七オ、十八ウ―十九オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　三重、おくり。句切は黒丸点。

備考　『古浄瑠璃正本集　第三』の六十五番に、国会図書館本が採用されているが、本書は国会本と同板である。
また表紙見返しには「gonse」の識語が貼られており、蔵書印もある。

16　なすの丶いこん

装幀　半紙本。一冊。二一・八×一六・一。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　二〇・三×一五・二。

内題　「なすの丶いこん」。上に「第一」。

所属　未詳。

段数　五段。「第一なすの丶いこん」、「第二かちはら父子ざんげん并むねたかるにん」、「第三与一ろうしや并高清うばい取て落行」、「第四五十三人れん判并そじやうの事」、「第五かぢはらさいご并与市高きよ出世の事」、と各段の始めに記す。但し、第一と第四は二行分を使って大きく記し、第四は十一オの初行から始まる。

刊記　終丁表本文末に「寛文三癸卯年五月吉日　山本九兵衛板」とある。

板元　山本九兵衛。上方板。

行数　十六行。

丁数　十八丁半。

板心　上方に「なすの」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一…十一、十三…十八丁）。ロ（十二丁）。

イ

ロ

丁付　「□、□、上四…上十一、下二…下十」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ、十四ウ―十五オ、十七ウ―十八オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　おろしふし、三重、ふし、なきふし、下ふし、いろ、いろふし、ふしゆりはる、ことはふし、おくり、いろことはふし、上下ふし、せめ。句切は黒丸点。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第三』の六十九番に採用された本である。

17　渡辺綱三田合戦

装幀　半紙本。一冊。二一・八×一六・三。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は頴原ノートに記録されている旧東大本の題簽を模して表紙左上に貼る。上に「新板」と横書し、界線をおいて「渡辺三田合戦」と中央に大書、右に「わたなべみたがつせん」、左に「よりよし公かまくらせめ子四天王せきやぶり」と細書する。界線下に「二条通」正本屋」喜右衛門」と三行。

匡郭　二〇・二×一四・八。

内題　「渡邊綱三田合戦子四天王せきやふり」。上に「第一」。

所属　未詳。

段数　五段。「第一」渡邊綱三田合戦子四天王せきやふり」、「第二」きよしげさいこ并わたなべぐんほう物語」、「第三」わたなべのみだいおち給ふ并かねみつさいご」、「第四」ため宗都へちうしん并子四天王いくさ立の事」、「第五」竹つな公平ぬけがけ并きよあきさいこの事」、と各段の始めに記す。但し、第一と第三は二行分を使って大きく記し、第三は九オの初行から始まる。

刊記　終丁裏本文末に「寛文三癸卯年九月吉日」とある。

板元　未詳。上方板。

行数　十六行。

丁数　十六丁。

板心　上方に「せきやふり」、下方に丁付。板心の形式は四種。イ（二…七・九・十・十六丁）。ロ（八丁）。ハ（十一・十三丁）。ニ（十二丁）。

イ

ロ

ハ

ニ

丁付　「□、□、□、□、□、上八、上九、上十、下一三、下十四、下十五、下十六九、下廿、□、□、下□三」。

挿絵　十頁分（見開き五）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、七ウ―八オ、十ウ―十一オ、十四ウ―十五オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　三重、おくり、いろ。句切は黒丸点。

備考　本書は『金平浄瑠璃正本集　第二』の二十九番に採用された本である。丁付からみても本書は再印本であり、第四に三丁分の省略（下十七…十九）があると考えられる。

18　わだざかもり

装幀　半紙本。一冊。二二・五×一六・二。改装。

表紙　替表紙。題簽の付いた元表紙の一部が、表紙見返しの紙の間にはさんである。

題簽　元表紙に残る。重郭。上部雲形の中に「新板」と横書、その下中央に「和田酒盛」と大書し、右に「わだざかもり」、左に「天下一さつま太夫正本」と細書する。界線をおいて「二□」□屋」九兵衛」と三行。

匡郭　重郭。外側一七・二×一二・二。内側一六・五×一一・九。

内題　「わだざかもり」。下に「初段」。

所属　さつま太夫。

段数　六段。「わだざかもり　初段」、「二だんめ」、「三だんめ」、「わたざかもり　四段目」、「五だんめ」、「六だんめ」、と各段の始めに記す。但し、初段と四段目とは二行分を使って大きく記し、四段目は七オの初行から始まる。

刊記　終丁表本文末に「寛文四甲辰年正月吉日　山本九兵衛板」とある。

板元　京、山本九兵衛。

行数　十六行。

丁数　十三丁半。

板心　上方に「わた」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「上二…上七、下二…下九」。

挿絵　十一頁分（見開き五、片面一）。二ウ―三オ、五オ、七ウ、八ウ―九オ、十ウ―十一オ、十二ウ―十三オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切は黒丸点。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第三』の七十一番に採用された本である。匡郭の大きさからみて、本来は中本であった可能性がある。山本九兵衛の刊行になる上方板ではあるが、題簽に江戸のさつま太夫正本とあり、匡郭が小さく重郭である点など、どちらかといえば江戸板風を残す。

19　浄土さんたん記ヵおはら問答（しんらんき）

装幀　半紙本。一冊。二一・〇×一六・三。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は、中央に大きく「しんらんき」、右に「ほうねんおはらもんどう」、左に「天下一大和少掾藤原貞則正本」、下に「二条通」正本屋」喜右衛門」と墨書した紙を、表紙の左上に貼る。これは粟津家文書に記された題簽を模したもの。

匡郭　二〇・〇×一四・七。

内題　「浄土さんたん記ヵおはら問答」。上に「第一」。

所属　未詳。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。但し、第一と第四は二行分を使って「浄土さんたん記ヵおはら問答」と大きく記す。

刊記　終丁裏本文末に「喜右衛門板」とある。

板元　京、鶴屋喜右衛門。

行数　十六行。

丁数　十八丁。但し、三丁表にあるべき見開きの挿絵の片側が、欠破。

板心　上方に「しんらん」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「二…十九」。

挿絵　十一頁分（見開き五、片面一）。二ウ、六ウ―七オ、十ウ―十一オ、十二ウ―十三オ、十四ウ下半―十五オ下半、十七ウ―十八オ。

絵師　未詳。

節譜　おくり、三重。句切はない。

備考　『古浄瑠璃正本集　第四』の七十八番には東大本が採用されているが、本書は東大本と同板の、仙果旧蔵・S. Bing 旧蔵本である。内題下には仙果の印記があり、表紙の右上には「Collection S. Bing」と記した紙を貼る。また Bing の識語を記した紙片が一枚、表紙見返しに挿入されている。

20 ほうねんき

装幀　半紙本。一冊。二二・三×一六・一。

表紙　元表紙。黒地に卍つなぎと唐草の空押。

題簽　欠。

匡郭　二〇・二×一五・〇。

内題　「ほうねんき」。上に「第一」。

所属　未詳。

段数　五段。「第一」ほうねんき」、「第二」ときくにさいご并せいし丸出家の事」、「第三」上人おはら入并しよしうほうもんの事」、「第四」上人るざい并かい中より鬼神あらはるゝ事」、「第五」上人帰京并仏法はんじやうの事」、と各段の始めに記す。但し、第一と第四は二行分を使って大きく記し、第四は十二オの初行から始まる。

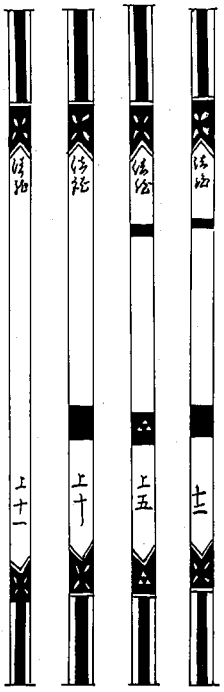
刊記　終丁裏本文末に「寛文六丙午年霜月吉日　山本九兵衛板」とある。

板元　山本九兵衛。上方板。

行数　十六行。

丁数　二十丁。

板心　上方に「法然」、下方に丁付。板心の形式は四種。イ（一…三・五…八・十一・十三…二十丁）。ロ（四丁）。ハ（九・十二丁）。ニ（十丁）。



丁付　「上二…上十一、□十二、下二…下十」。

挿絵　十四頁分（見開き七）。二ウ―三オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十二ウ―十三オ、十四ウ―十五オ、十七ウ―十八オ、十九ウ―二十オ。一部に彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　三重、おくり。句切は黒丸点。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第四』の七十七番に採用された本である。一部に裏打があり、題簽も失わなれているが、原装をよく保存している本である。

21 〔しやか八さう記付仏母まや婦人〕

装幀　半紙本。一冊。二二・五×一六・三。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　二〇・〇×一四・七。

内題　巻頭落丁。第四段の始めに「しやか八さう記付仏母まや婦人」とある。

所属　未詳。

段数　五段。第二…第五と、各段の始め上方に記す。第一の部分は落丁。第四は「しやか八さう記付仏母まや婦人」と二行分を使って大きく記し、十オの初行から始まる。

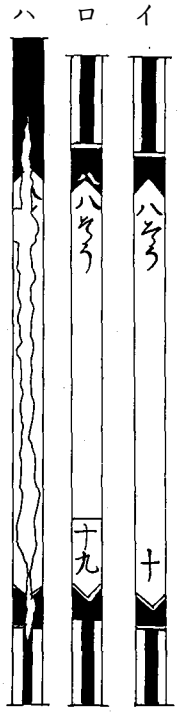
刊記　終丁裏本文末に「寛文九己酉年七月吉日　八文字屋八左衛門板」とある。

板元　八文字屋八左衛門。上方板。

行数　十六行。

丁数　十七丁。落丁本。

板心　上方に「八そう」、下方に丁付。板心の形式は三種。イ（十一丁）。ロ（二・五・六・八…十・十二・十三・十五…十七丁）。ハ（十四丁）。



丁付　「□、□、□、□、八、九、□、□、十二…二十」。

挿絵　八頁分（見開き三、片面二）。三オ（欠破）、六ウ―七オ、九オ、十一ウ―十二オ、十四ウ―十五オ。一部に彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　ふし、上、おくり、三重。句切はない。

備考　『古浄瑠璃正本集　第五』の百十一番に、東大霞亭文庫本が採用されているが、本書は東大本と同板本である。ただし本書には、巻頭に二丁分の落丁があり、一部に欠破もみられる。

22　ごわうのひめ

装幀　半紙本。一冊。二一・七×一五・八。

表紙　元表紙。紺無地に卍つなぎ花菱模様の空押。

題簽　欠。

匡郭　二〇・三×一五・〇。

内題　「ごわうのひめ」。上に「第一」。

所属　未詳。

段数　六段。第一…第六と、各段の始め上方に記す。

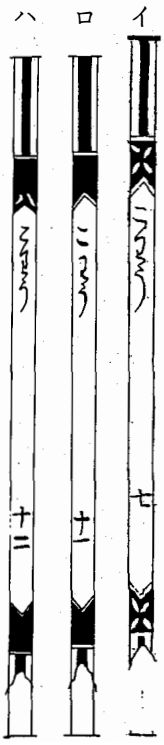
刊記　終丁裏本文末に「寛文拾三丑暦正月上旬　八もんしや八左衛門板」とある。

板元　八文字屋八左衛門。上方板。

行数　十六行。

丁数　十六丁。

板心　上方に「こわう」、下方に丁付。板心の形式は三種。イ（一…九、十二…十五丁）。ロ（十丁）。ハ（十一・十六丁）。



丁付　「二…十七」。

挿絵　十四頁分（見開き七）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ、十三ウ―十四オ、十五ウ―十六オ。

絵師　未詳。吉田半兵衛風。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第八』の百四十九番に採用された本である。

この『ごわうのひめ』は、『浄瑠璃御前物語』と並んで操り浄瑠璃の創始期から語られた古い作品であった事は、『東海道名所記』の記事や、『三壺聞書』の慶長十九年の金沢での上演記事などから、以前より知られていた。

本書はこの『ごわうのひめ』の現存最古の正本であり、以前に水谷不倒氏が紹介されていたが、その後永らく行方の判らなかった書である。

23　一心二かびやく道

装幀　半紙本。一冊。二二・三×一六・三。

表紙　元表紙。黒地に唐草の空押。

題簽　元題簽。重郭。上部中央に竹輪に九枚笹の紋、その右に「天下一出羽掾」、左に「藤原信勝」とある。界線をおいて中央に「二河白道」と大書し、右には「一心にがびやくだう」、左には「丹波おいの坂子安地蔵□□記」とある。また界線をおいて下に「二条通」正本屋」九兵衛」と三行。

匡郭　二〇・二×一五・三。

内題　「一心二かびやく道」。上に「第一」。

所属　出羽掾藤原信勝。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

刊記　終丁表本文末に「寛文十三癸丑三月下旬　山本九兵衛板」とある。

板元　京、山本九兵衛。

行数　十八行。

丁数　十七丁半。表紙見返しに扉絵半丁。

板心　上方に「ちそう」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…十八」。

挿絵　十頁分（見開き五）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、九ウ―十オ、十三ウ―十四オ、十六ウ―十七オ。一部に彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　上おろし、おくり、□（色カ）ことは、ふし、三重、いろ、いろふし、くり上、上ふし。句切はない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第四』の八十九番に採用された本である。表紙見返しには扉絵があり、中央上部に地蔵の絵、下に参詣人や往来の人々を描く。絵の右側には「たんばの國おいの坂」、左には「子安地蔵之御傳記」と大字で記す。

24　すゑたけ印問答

装幀　半紙本。一冊。二二・四×一七・一。現在は裏打して改装されているが、元の紙の大きさは二二・〇×一六・二。

表紙　替表紙。

題簽　元題簽。重郭。中央に「末武印問答」と大きくあり、右に「すへたけしるしもんだう」、左に「せんちんこうめうあらそひ」とある。界線をおいて下に「二条通」正本屋」九兵衛」と三行。

匡郭　一九・六×一五・一。

内題　「すゑたけ印門答」。上に「第一」。

所属　未詳。

段数　六段。第一…第六と、各段の始め上方に記す。

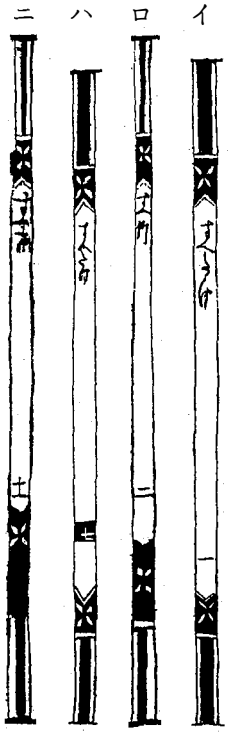
刊記　終丁落丁のため不明。現在付いている半丁分の終丁は、別本のものである。

板元　京、正本屋九兵衛。

行数　十六行。

丁数　十五丁。巻末落丁。

板心　上方に「すへたけ」「すへ竹」、下方に丁付。板心の形式は四種。イ（一・三…六・八…十・十二…十五丁）。ロ（二丁）。ハ（七丁）。ニ（十一丁）。



丁付　「一…十五」。

挿絵　十頁分（見開き五）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ、十四ウ―十五オ。

絵師　未詳。

節譜　「三重」のみ。句切はない。

備考　本書は『金平浄瑠璃正本集　第二』の三十六番に採用された本である。現在の最終丁の半丁は別本のものであり、山本九兵衛板の絵入十六行『弱法師』の最終丁ウが添付されたものである。

25　松風村雨

装幀　半紙本。一冊。二三・七×一六・七。現在は裏打して改装されているが、元の紙の大きさは二一・七×一五・七。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は表紙左に「松風村雨」、その下に小さく「浄瑠璃本」と墨書。右上には「寛文」吉田半兵エ画」と書す。

匡郭　一九・七×一四・五。

内題　「松風村雨」。上に「第一」。

所属　未詳。二段目の初めに「左太夫」、五段目の中に「七太夫かたる道行」とあるが、左太夫、七太夫とも未詳。

段数　五段まで存し、巻末落丁。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

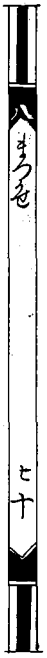
刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十六行。

丁数　十三丁。落丁本。

板心　上方に「まつかせ」、下方に丁付。板心の形式は一種。



丁付　「二…六、七十、十一…十六、□」。

挿絵　十三頁分現存（見開き六、片面一）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ、七ウ―八オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ、十三ウ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　「三重」だけがある。句切はない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第六』の百二十六番に採用された本である。巻末に落丁があり、十三ウに続く挿絵の片面を含めて二丁か三丁分が欠けているものと考えられる。本書の刊年について横山重氏は右書解題において、寛文頃の六段構成の元曲を寛文末から延宝初年頃、改変省略した本と推定されている。本学が新しく所収の本に、一段より四段半ばまでの本文をもった、本書と同系本があり、その最終丁、最終行左上隅に「寛」と略々判定出来る一字が見える。寛文の刊年記の一端であろう。

26　平治合戦付かまださいご

装幀　半紙本。一冊。二二・五×一五・九。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　二〇・二×一四・八。

内題　「平治合戦付かまださいご」。上に第一。

所属　未詳。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。但し、第一と第四は「平治合戦付かまださいご」と、二行分を使って大きく記す。

刊記　終丁裏本文末に「月　日」八文字屋」八左衛門板」とある。刊行年は削られている。

板元　八文字屋八左衛門。上方板。

行数　十六行。

丁数　十七丁。

板心　上方に「平治」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「二、□、四…十一、□、□、□、□、□、十七、□」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。二ウ―三オ、四ウ―五オ、七ウ―八オ、十一ウ―十二オ、十四ウ―十五オ、十六ウ―十七オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　三重、おくり、四きのたん、ちう、中、中ふし、乙、ふしおさまる、中をん、いろすゆるふし、持、はる、上はるふし、下ふし、をついろかはるあらとふし、つきはる、はるいろかはる、ぎんがはり、ほんふし、おつ、色かはり、はるもつ、下かゝるふし、□少カひろい、持下ぶし、はるくり上け、引持、あはせふし、本ふし、ひろいのる、引取三重、上ふし、もつくる、まはす、七つゆり、せめ、はり上けいろかはり。句切はない。

備考　本書は未紹介の正本である。刊記の年月を削っているところから後刷本と思われるが、その元板の刊行は板式等から寛文頃と考えられる。第三の後半の「四季の段」に数多くの節譜が施されており、曲節の上からも重要な本である。

27　ひだのたくみ

装幀　半紙本。一冊。二一・三×一五・六。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一九・五×一四・四。

内題　「ひだのたくみ」。上に「初段」。

所属　未詳。

段数　五段。初段、二段…五段と、各段の始め上方に記す。

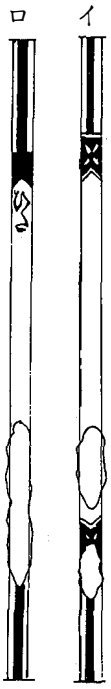
刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十七行。

丁数　十二丁。落丁本。

板心　上方に「ひた」（一・三丁）、「たくみ」（四…十二丁）、「たくわた」（十一丁）。柱題なし（一丁）。下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一丁）。ロ（二…七・九丁）。



丁付　「□、□、□、六…九、□…□」。

挿絵　十頁分（見開き四、片面二）。二ウ―三オ、四ウ―五オ、六オ、七オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ。

絵師　未詳。

節譜　をろし、ことば、三ちう、ふし、おくり、くり上、うれいふし、地、はつみ、つきゆり、はる、はるおとし、なきふし、かん、引。句切は黒丸点。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第八』の百五十四番に採用された本である。巻末に一丁程度の落丁があるが、板式等から判断して、寛文末から延宝頃の刊行と推定される。段名の記法に特色があり、初段、二段…五段と上部に匡郭付きで記す。普通匡郭付きで段名を記す場合は、第一…第五とするものが殆どである。挿絵も師宣一派の風がうかがえ、これらを勘案すると、江戸板の先行が考えられる。ただし、節付の特色から、本書を伊藤出羽掾正本とみる説が出されている（『古浄瑠璃正本集　第八』解題）。

28 しのたづまつりぎつね付あべノ清明出生

装幀　半紙本。一冊。二二・〇×一五・九。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一九・七×一四・六。

内題　「しのたづまつりぎつね付あべノ清明出生」。上に「第一」とある。

所属　未詳。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「延寳二甲寅年九月上旬」「鶴屋」喜右衛門板」とある。

板元　鶴屋喜右衛門。上方板。

行数　十八行。

丁数　十七丁。落丁本。

板心　上方に「しのた」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「二…九、十一、十二十三、十五…二十一」。

挿絵　九頁分（見開き三、片面三）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八ウ、十一ウ―十二オ、十四オ、十六オ。

絵師　未詳。

節譜　上おろし、三重、ふしおとし、ふし、つきゆりふし、おとしふし、いろ、はつみふし、いろをん、いろちふし、色おん、おすふし、いろふし、ふしゆり、くり上ふし、色ことは、七つゆり、いろ下、下おん。句切はない。

備考　『古浄瑠璃正本集　第四』の九十番には東大本が採用されているが、同書の解題で本書が紹介されている。本書は東大本と同板本であるが、実丁の八丁と九丁の間、十丁と十一丁の間に各々一丁分ずつ、計二丁分の落丁がある。

29 〔いぶき山〕

装幀　半紙本。一冊。二一・五×一六・五。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は、「金平本　寛文頃板」零本」と墨書した短冊形の紙を貼る。また「金平本」と書く右上に「伊吹山」、下に「吉田半兵衛画」と朱書。

匡郭　一九・七×一五・〇。

内題　上に「第一」とあるが、内題の部分は削られており、その下に「并ニしゆてんどうじ二代目」付リつちぐもたいぢ」と二行。

所属　未詳。

段数　五段ヵ。第一、第二、第四、第五とあるが、第三とあるべき部分は落丁。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十六行。

丁数　九丁半。落丁本。

板心　上方に「いぶき山」「いふき山」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、四…六、□、□、十、十□、□、□」。

挿絵　七頁分（見開き二、片面三）。一ウ―二オ、四オ、五ウ―六オ、八オ、九ウ。

絵師　未詳。

節譜　序、三重、をくり。句切は黒丸点。

備考　本書は『金平浄瑠璃正本集　第三』の五十四番に採用された東大図書館本と同板本であり、同書の解題の中でも簡単に紹介されている。本書には二丁分の落丁があり、一部に欠破もみられる。元板の刊行は板式等から判断して延宝初年頃と推定される。

30　七小町

装幀　半紙本。一冊。二一・七×一一・八。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一九・九×一五・〇。

内題　「七小町」。上に「第一」、下に「山本角太夫直之正本」。

所属　山本角太夫。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十八行。

丁数　十丁。落丁本。

板心　上方に「七小町」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一丁）。ロ（二…十丁）。

丁付　「三…七、八ノ十、十一…十四」。

挿絵　七頁分（見開き三、片面一）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、七オ、九ウ―十オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。吉田半兵衛風。

節譜　角太夫流の墨譜・文字譜あり。句切は黒丸点。

備考　本書は巻末に落丁があり、刊記をみる事はできない。旧東大蔵の十七行本別板には「延宝五丁巳年八月吉日　太夫直之正本屋　山本九兵衛板」の刊記があり、内題下には「山本角太夫直之正本」とあった（潁原ノート）。早大演博蔵本は奥書を欠くが、見返しに「天下一若狭藤原吉次山本角太夫」とある。

31　松浦五郎景近

装幀　半紙本。一冊。二二・三×一六・四。

表紙　元表紙。黒無地。

題簽　元題簽と脇方簽が残る。題簽は重郭。上に「一ノ宮」「親王」「恋慕」と三行、界線をおいて下中央に「松浦伍郎」と大書し、右に「まつらごらうかげちか」、左に「清水理太夫正本」と細書する。界線をおいてその下に「二条通」（「鶴」の模様）屋」喜右□門」と三行。

脇方簽は朱色の地に重郭付き。中央に「清水理大夫」と大きく出し、その右肩に「天王寺」とある。その右に「ぢきの」、左に「ふし付」とあり、界線をおいて下に「正本」と横書する。（口絵参照）。

匡郭　二〇・四×一五・〇。

内題　「松浦五郎景近」。上に「第一」、下に「清水利大夫正本」。

所属　清水利大夫。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

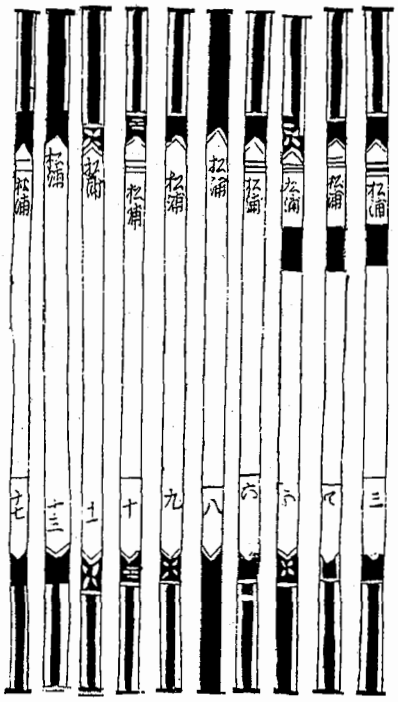
刊記　終丁裏本文末に「延寶六戊午年正月吉日　清水利大夫正本」。

板元　京、鶴屋喜右衛門。

行数　十六行。

丁数　十五丁。

板心　上方に「松浦」、下方に丁付。板心の形式は十種。イ（一丁）。ロ（二丁）。ハ（三丁）。ニ（四・五・十・十二・十三丁）。ホ（六丁）。ヘ（七丁）。ト（八丁）。チ（九・十四丁）。リ（十一丁）。ヌ（十五丁）。



丁付　「三…十七」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ、十四ウ―十五オ。

節譜　利大夫の墨譜・文字譜。句切は黒丸点。

備考　『版本文庫』（図書刊行会）七に、本書の複製と解題（信多純一）がある。原装をそのまま残す、竹本義太夫初期の美本として名高い。

32 〔新あつもり〕

装幀　半紙本。一冊。破損の多い本で、十丁が仮綴されている。二〇・五×一五・八。

表紙　欠。

題簽　欠。

匡郭　二〇・三×一五・一。

内題　上に「第一」とあり、その下が削られて「并ニ小あつもり」とある。

所属　未詳。

段数　未詳。第一、第三、第四、第五とある部分が残る。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十八行。

丁数　十丁。落丁本。

板心　上方に「新あつもり」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一・三・四・七丁）。ロ（二・五・六・八・九丁）。

イ

ロ

丁付　「□、四、六、七、八ノ十、十一、十二、十三、十四、□」。

挿絵　七頁分（見開き三、片面一）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、七オ、九ウ―十オ。

絵師　未詳。

節譜　いろ、ことは、はるおとし、かゝり、ふし、おくり、引、はつみ、はつみふし、大三重、はる、地、三重、うたかゝり、すへて、シテ、詞、ワキ、くり上、かんゆり、上、つきゆり、はるいろ、かん、なきふし、地いろ、すへふし、ぎん、ひやうし、かゝりせめ、せつきやう、あたる、下ゆり、あいの山ふし、引取。句切は黒丸点。

備考　内題が削られているので柱題の「新あつもり」を仮の題名とした。延宝末頃の刊行の書で、太夫は節付からみて出羽掾系と推定される。

33　かいぢん八嶋

装幀　半紙本。一冊。二二・〇×一六・二。改装。

表紙　元表紙ヵ。黒無地。

題簽　欠。

匡郭　二〇・一×一五・二。

内題　「かいぢん八嶋」。上に「第一」、下に「加賀掾正本」。

所属　宇治加賀掾。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

刊記　終丁表本文末に「二條通寺町西へ入北側」とあり、下に「大坂かうらいばし」さかいすぢのかど出見せ有」と二行。その下に「山本九兵衛板」とある。

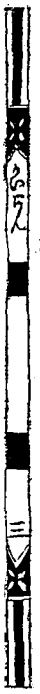
板元　京・大坂、山本九兵衛。

行数　十七行。

丁数　十五丁半。

板心　上方に「かいぢん」「かいちん」。下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一・二丁）。ロ（三…十六丁）。

イ



ロ

丁付　「三…十八」。

挿絵　九頁分（見開き三、片面三）。一ウ―二オ、四オ、六オ、八オ、十ウ―十一オ、十四ウ―十五オ。

絵師　未詳。

節譜　加賀掾流の墨譜・文字譜。句切は黒丸点。

備考　近世文学資料類従・西鶴編『凱陣八嶋・小竹集』に、本書の複製と解題（信多純一）がある。本書をもとに、十八行十三丁半秋田屋板がなる。共に刊年はないが、本作は、貞享二年宇治座二の替りの上演である。その下限は同年三月廿四日で、『今昔操年代記』と『土橋宗静日記』の加太夫芝居出火の記事から判明する。

34　あふひのうへ

装幀　大本（献上本）。一冊。二五・二×一九・三。

表紙　元表紙。元は鶯色無地ヵ。現在は灰色に近い。

題簽　元題簽。表紙中央に「あふひの上」と記して貼る。

匡郭　なし。初丁表の最終行、本文寸法一九・六。

内題　「あふひのうへ」。

所属　宇治加賀掾。

段数　五段。「第二」、「第三みやす所きぶね詣」、「第四」、「第五」。
　　また五オには「あふひのうへ道行」と記す。

刊記　裏表紙見返しに「右此本者依小子之懇望附秘密」音節自遂校合令開版者也」加賀掾（「宇治」の壺印）・（「好澄」の方印）」二條通寺町西へ入町　山本九兵衛刊（「寶」の方印）」とある。

板元　京、山本九兵衛。

行数　八行。

丁数　四十四丁。

板心　十二丁、二十一丁、二十九丁、三十八丁の板心中央に、それぞれ「二」「三」「四」「五」とある。

柱刻　綴目付近上方に「あ」、下方に丁付。

丁付　「あ一」…「あ四十四」。

挿絵　なし。

節譜　加賀掾流の墨譜・文字譜。

備考　内題下に「千種文庫」の方印記がある。この印記を含めて、書形、表紙、題簽等が、本目録四十三番の『曽我花橘』に共通する。本書の刊行は貞享年間と推定されるが、詳細は「宇治加賀掾年譜」（『加賀掾段物集』所収）参照。

35　紀三井寺開基

装幀　半紙本。一冊。二一・八×一六・一。改装。

表紙　元表紙。元は黒無地ヵ。現在は灰色に近い。

題簽　欠。

匡郭　二〇・一×一四・八。

内題　「紀三井寺開基」。上に「第一」、下に「加賀掾正本」。

所属　宇治加賀掾。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

刊記　終丁表本文末に「二條通寺町西へ入町北側　山本九兵衛板」とある。

板元　京、山本九兵衛。

行数　十六行。

丁数　十四丁半。

板心　上方に「紀三」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一丁）。ロ（二…十五丁）。

イ

ロ

丁付　「三…十七」。

挿絵　九頁分（見開き四、片面一）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八オ、十ウ―十一オ、十三ウ―十四オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。吉田半兵衛風。

節譜　加賀掾流の墨譜・文字譜。句切は黒丸点。

備考　本書には刊年が記されていないが、天理図書館蔵の山本九兵衛板の八行本『煩悩即菩提記』（内題。外題は「紀三井寺」）の終丁には「貞享五年彌生吉詳日」とある。「宇治加賀掾年譜」（『加賀掾段物集』所収）・「宇治加賀掾年譜補正」（古典文庫・『古浄瑠璃集　加賀掾正本　一』）参照。

36　天王寺彼岸中日付タリ本朝邯鄲之枕

装幀　半紙本。一冊。二二・七×一六・六。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は重郭の中に「天王寺彼岸中日付タリ本朝邯鄲之枕」と墨書した紙を貼る。

匡郭　二〇・二×一四・八。

内題　「天王寺彼岸中日付タリ本朝邯鄲之枕」。上に「第一」。

所属　山本角太夫（推定）。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

刊記　終丁表本文末に「二條通寺町西へ入北側　山本九兵衛板」とある。

板元　京、山本九兵衛。

行数　十七行。

丁数　十四丁半。落丁本。

板心　上方に「天王寺」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一丁）。ロ（二…十四丁）。

イ

ロ

丁付　「三…十六、□」。

挿絵　八頁分（見開き三、片面二）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、九ウ―十オ、十二オ、十四ウ。

絵師　未詳。

節譜　角太夫流の墨譜・文字譜。句切は黒丸点。

備考　表紙見返し、五ウ、終丁刊記に「川弥」の印記がある。本書は稀書複製会本（第四期）の原本であるが、丁付十六の次の一丁が欠落している。天理図書館には本書と同板の十五丁半の本がある。本作の上演は元禄元年二月頃と考えられる。『古典文庫』「古浄瑠璃集　角太夫正本㈠」の「角太夫の語り物」参照。

37　日本蓬莱山

装幀　半紙本。一冊。二二・八×一六・五。

表紙　元表紙。藍地に麻葉の空押。

題簽　元題簽。中央に「日本蓬莱山」と大きく出し、下に「山本土佐□（掾カ）」直傳」と二行。表紙中央に貼る。

匡郭　なし。初丁表最終行、本文寸法一九・九。

内題　「日本蓬莱山」。

所属　山本土佐掾。

段数　五段。第二…第五と、各段の始めの上方に記す。第一はない。

刊記　裏表紙見返しに「右此本は我等持本の通ちがひなく板行致し候」初心稽古のため也さればこと〴〵くかながきにして」くぎりふししやう三味線ののりかたほどひやうし」三重をくりのしな〴〵秘密を残さずあらはし候」なをじん〴〵の口傳は筆紙のおよぶへきにあらす」かしこ」山本土佐掾（「藤原孝勝」の方印）」二條通寺町西へ入北側正本屋」山本九兵衛板行（「寶」の方印）」とある。

板元　京、山本九兵衛。

行数　十行。

丁数　三十六丁。

柱刻　綴目付近上方に「宝」、下方に丁付。

丁付　「宝一」…「宝卅六」。

挿絵　なし。

節譜　角太夫流の墨譜・文字譜。句切は黒丸点。

備考　表紙見返しに扉絵があり、富士山に来迎する阿弥陀三尊、及びそれを拝し禊する行者の姿を描き、「ざ　んぎさんげ六こんざいしやうおしめに八大こんがうどうじふじはせんけん大日如来一ヵにらいはいな無浅間大菩薩〴〵」と記す。

本書の刊行は元禄初年頃と考えられるが、詳細は『古典文庫』「古浄瑠璃集　角太夫正本(一)」の「角太夫の語り物」参照。

38　動稚高麗責

装幀　半紙本。一冊。二一・九×一六・六。改装総裏打。

表紙　元表紙ヵ。黒地に卍つなぎの空押。

題簽　欠。

匡郭　二〇・〇×一五・〇。

内題　「動稚高麗責」。上に「第一」、下に「土佐掾正本」。

所属　山本土佐掾。

第五段数　五段。第一…　と、各段の始め上方に記す。

刊記　終丁表本文末に「二條通寺町西へ入北側　山本九兵衛板」とある。

板元　京、山本九兵衛。

行数　十七行。

丁数　十三丁半。

板心　上方に「かうらい」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一丁）。ロ（二…十三丁）。

イ

ロ

丁付　「三…十四、□、□」。

挿絵　十頁分（見開き五）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十二ウ―十三オ。

絵師　未詳。

節譜　角太夫流の墨譜、文字譜。句切は黒丸点。

備考　本書の刊行は元禄初年頃と考えられる。『鸚鵡籠中記』元禄六年八月廿三日の記事に、「彼岸入、真福寺にてゆり若大臣高麗責、水からくり笹尾平太夫」とあり、初演はこの名古屋上演以前と判る。『古典文庫』「古浄瑠璃集　角太夫正本㈠」の「角太夫の語り物」参照。

39 〔弁慶京みやげ〕

装幀　半紙本。一冊。破損が多く、裏打をした十一丁が紙こよりで三ケ所とめられている。二一・七×一五・九。

表紙　欠。

題簽　欠。

匡郭　二〇・一×一四・四。

内題　巻頭が落丁のため不明。

所属　山本角太夫（推定）。

段数　未詳。第二、第四、第五とある部分が残る。

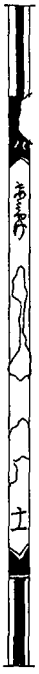
刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十七行。

丁数　十一丁。落丁本。

板心　上方に「京みやけ」、下方に丁付。板心の形式は一種。



丁付　「□、□、□、□、□、□、□、十一…十三、□」

挿絵　七頁分（見開き二、片面三）。一オ、三オ、五ウ下半―六オ下半、八オ、十ウ―十一オ。一部に彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　角太夫流の墨譜・文字譜。区切は黒丸点。

備考　本書は巻頭が欠け内題を知ることができないが、柱に「京みやけ」とある。巻末にも落丁があり、現在は十一葉であるが、元は十二丁半か、十三丁と推定される。『弁慶京土産』には他に十行三十丁本が残っており、これも本書と同じく節付より角太夫正本と推定されている。『鸚鵡籠中記』元禄九年十一月廿日の記事によれば、熱田亀井の道場にて松本治太夫が本曲を上演しており、これ以前初演と判る。詳細については『古典文庫』「古浄瑠璃集　角太夫正本(一)」の「角太夫の語り物」参照。

40　大がらん宝物鏡

装幀　半紙本。一冊。二二・九×一六・七。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は重郭を印刷した薄地の白紙に「大がらん宝物鏡（なんきんらくり）」と墨書して、表紙左上に貼る。

匡郭　二〇・三×一四・八。

内題　「大がらん宝物鏡（なんきんらくり）」。上に「第一」、下に「松本治大夫正本」。

所属　松本治大夫。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

刊記　終丁表本文末に「ふ屋町通せいくはんじ下ル町子ノ五月吉日　八文字屋八左衛門新板」とある。

板元　京、八文字屋八左衛門。

行数　十七行。

丁数　十二丁半。

板心　上方に「宝物」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一丁）。ロ（二…十二丁）。

丁付　「三…十四、□」。

挿絵　八頁分（見開き四）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ。

絵師　吉田半兵衛風。

節譜　松本治大夫流の墨譜、文字譜。句切は黒丸点。

備考　『古浄瑠璃正本集　第九』の百七十二番に『新大織冠水がらくり』が採用されているが、本書はそれに僅かな改変を加えた正本であり、右書解題でも本書が紹介されている。また本書は稀書複製会本（四期）の原本となったものである。

41　けいせい八花形

装幀　半紙本。一冊。二二・三×一六・三。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　二〇・四×一四・八。

内題　「けいせい八花形付りかうしよく八とく一そん」。上に「第一」、下に「竹本筑後掾正本」。

所属　竹本筑後掾。

段数　五段。第一…第五と、各段の始め上方に記す。

刊記　終丁表本文末の下方に「山本九兵衛板」とある。

板元　山本九兵衛。上方板。

行数　十八行。

丁数　本文十丁半。表紙見返しに辰松の口上と舞台図半丁。

板心　上方に「八花形」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「十六（表紙見返し）、三…八、九ノ十二、十三…十五」。

挿絵　六頁分（見開き二）二ウ―三オ、五ウ下半―六オ下半、九ウ―十オ。

絵師　未詳。

節譜　筑後掾流の節譜。句切は黒丸点。

備考　内題下に荻原乙彦の卦印がある。本作の上演は元禄十六年十月頃と推定されるが、詳細については『義太夫年表　近世篇』第一巻（延宝～天和）参照。また本書表紙見返しの辰松八郎兵衛の口上も、同書に翻刻されている。その口上により錦文流作と知り得る。

42　義経将棊経

装幀　大本（献上本）。一冊。二七・〇×一八・二。改装。

表紙　替表紙ヵ

題簽　元題簽。「将棊経」と記した短冊形の紙を、表紙中央に貼る。

匡郭　なし。初丁表の最終行、本文寸法一九・二。

内題　「義経将棊経」。下に「加賀掾正本」。

所属　宇治加賀掾。

段数　三巻。二十五オに「第二」とあり、三十七オに「しのぶの前道行三段目」とある。四十九オには「軍法将棊経」と記す。

刊記　裏表紙見返しに「右此本者依小子之懇望附秘密」音節自遂校合令開版者也」加賀掾（「宇治」の壺印）・（「好澄」の方印）」二條通寺町西へ入町」山本九兵衛刊（「寶」の方印）」とある。

板元　京、山本九兵衛。

行数　八行。

丁数　五十七丁。

柱刻　綴目付近上方に「義」（一…三十六、三十九五　十七丁）。「源道」（三十七、三十八丁）。下方に丁付。

丁付　「義一…義三十六、源道一、源道二、義三十九…義四十八、義四十九将一…義五十二将四、義五十三…義五十七了」。

挿絵　なし。

節譜　加賀掾流の墨譜・文字譜。

備考　天理図書館蔵の『紫竹集』の追加九に、「しのぶの前道行三段目」とあるが、これが本書の三十七オ以下に相当する。この『義経将棊経』の正本として、他に竹本筑後掾の八行本（山本板）があるが、その上演年代は不明で、一応正徳元年正月二十一日以前と推定されている（『義太夫年表　近世篇』第一巻参照）。

43　曽我花橘

装幀　大本（献上本）。一冊。二五・三×一九・三。

表紙　元表紙。元は鶯色無地ヵ。現在は灰色に近い。

題簽　元題簽。表紙中央に「曽我花たちはな」と記した紙を貼る。

匡郭　なし。　初丁表の最終行、本文寸法十九・五。

内題　「曽我花橘」。下に「加賀掾正本」。

所属　宇治加賀掾。

段数　三巻。十九オに「中之巻」、四十三オに「形見をくり　下之巻」とある。また二十五オに「紋盡し」、五十オに「傾城三部経」、五十七オに「十番ぎり」と記す。

刊記　裏表紙見返しに「右此本者依小子之懇望附秘密」音節自遂校合令開版者也」加賀掾（「宇治」の壺印）・（「好澄」の方印）」二條通寺町西へ入町」山本九兵衛刊（「寶」の方印）」とある。

板元　京、山本九兵衛。

行数　八行。

丁数　六十二丁。

柱刻　綴目付近、郭内上部に「花橘」、下部に丁付。

丁付　「一…二十四、■、二十六…四十二、■、四十四…四十九、■、■、五十二…六十二了」。

挿絵　なし。

節譜　加賀掾流の墨譜・文字譜。

備考　初丁右下に「千種文庫」の朱印記がある。本目録三十四番の「あふひのうへ」とは、表紙、題簽等の形式が共通し、共に旧千種文庫（平瀬家）蔵本である。

『紫竹集』追加十に「紋尽し」「傾城三部経」「形見をくり」「十番ぎり」が収められている。本作は竹本筑後掾正本『曽我扇八景』を改訂したものとされ、本文庫の四十五番にも山本板の『曽我扇八景』の八行本がある。

44 〔松風村雨束帯鑑〕

装幀　半紙本。一冊。裏打が施されているが、下方に特に欠破が多く元の寸法がわかりにくい。二一・〇×一四・八位。

表紙　欠。

題簽　欠。

匡郭　一九・三×一三・八。

内題　巻頭が落丁のため不明。

所属　竹本筑後掾。

段数　未詳。第二、第三、第四とある部分が残る。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十七行。

丁数　八丁。落丁本。

板心　上方に「松かぜ」、下方に丁付。汚損がはなはだしく、板心の形式は認め得ない。

丁付　「□、□、□、□、□、十□、□、□」。

挿絵　四頁分（見開き二）。一ウ―二オ、六ウ―七オ。

節譜　義太夫流の墨譜・文字譜。句切は黒丸点。

絵師　未詳。

備考　本書は巻頭も巻末もなく、内題を知ることができないが、柱に「松かぜ」とあり、『松風村雨束帯鑑』の零本であることが判る。東京国立博物館に、大阪、山本九兵衛板の十七行九丁半の『松風村雨束帯鑑』があり、本書と同板である。本書は巻頭の一丁と巻末の半丁の計一丁半が欠落している。

45　曽我扇八景

装幀　半紙本。一冊。二二・三×一六・〇。

表紙　元表紙。藍地に麻葉に蝶の空押。

題簽　元題簽。中央に「曽我扇八景」と大書、下に「竹本筑後掾直傳」山本九兵衛新板」と二行。「扇」の字の右側と、九兵衛の「衛」の字の左側一部が剝離。

匡郭　なし。初丁表の最終行、本文寸法一九・七。

内題　「曽我扇八景」。下に「近松門左衛門作」。

所属　竹本筑後掾。

段数　三巻。十九オに「中之巻」、四十二オに「曽我兄弟道行　下之巻」と記す。また二十四オには「紋づくし」、五十一オに「けいせい三部経」、五十八オに「十はんぎり」と記す。

刊記　裏表紙見返しに「右之本令吟覧頌句音節墨譜」等不残毫厘令加筆候可有開」版者也　竹本筑後掾（「竹本」の壺印）・（「博教」の方印）」重而予以著述之本令校合候」畢全可為正本者欤」近松門左衛門」とあり、更にその後に「大坂高麗橋壱丁目」と上にあり、その上に「正本屋」山本九兵衛版」山本九右衛門版」と二行。

板元　大坂、山本九兵衛・山本九右衛門。

行数　八行。

丁数　本文六十四丁、奥付半丁。但し本文一丁分落丁。

柱刻　綴目付近上方に「扇八景」、下部に丁付。

丁付　「扇八景一」…扇八景十七」、扇八景十八ゟ廿二迄」、扇八景二十三」…扇八景四十」、扇八景四十二」…扇八景六十九畢」。

挿絵　なし。

節譜　義太夫流の墨譜、文字譜。

備考　内題上に「伊勢尾津家文庫」、内題下に「木谷蓬吟文庫」の印記がある美本である。本書は三十六丁と三十七丁の間に一丁分の落丁がある。本書と同板の八行六十五丁本は東洋文庫等に所蔵されている。本作の上演年代は不明であるが、一往正徳元年正月二十一日以前と推定されている（『義太夫年表近世篇』第一巻）。

46　翁竹集

装幀　半紙本。一冊。二二・四×一六・二。改装総裏打。

表紙　元表紙。黒無地。

題簽　欠。

匡郭　なし。

内題　なし。栄竹の序に「翁竹」とある。

所属　宇治加賀掾一派。

段数　栄竹の序、一丁。終りに「正徳辰の春」とある。ついで竹翁の十四首の雅歌と、音曲の古歌十二首が三丁半。更に竹翁自筆の「真の序開口」・「老松」が二丁。この間に欠丁あり。ついで宝永三年に竹翁の撰した「九曲」が二十五丁半。後欠丁。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　八行。

丁数　三十二丁。落丁本。

柱刻　綴目付近上方に「翁」、下部に丁付。ほゞ全丁にわたって付されるが、その多くは裁断の為か一部残るのみである。

丁付　「□…、六、□…、卅、□…、三十四、□…、三十八」。

挿絵　なし。

備考　本書は三十二丁であるが、天理図書館蔵本が山本九兵衛板四十一丁本であり、九丁分が落丁している事になる。本書の刊行は序に「正徳辰の春」とあるところから、正徳二年春であり、前年の「卯の初春廿一日」（序文）に卒した竹翁加賀掾の一周忌に刊行された事が判る。詳細は『加賀掾段物集』参照。

47 〔かつらき〕

装幀　中形本。一冊。一八・九×一四・二。

表紙　元表紙。空色の具引き紙に銀色の波頭、波形の模様。

題簽　欠。

匡郭　一七・〇×一二・三。

内題　なし。内題のあるべきところに「天下一丹波少掾平正信正本也」とし、下に「和泉」の壺形印。

所属　丹波少掾平正信。

段数　六段。二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者江戸天下一丹波」少掾平正信直之以正本一點」毛頭無誤寫之令板行者也」寛文六歳」丙午孟春吉辰」とある。

板元　未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　十九丁。

板心　上方に初め四丁は「かつら」以下「かつらき」。下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、□、三…十九」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ。四ウ―五オ。七ウ―八オ十ウ―十一オ、十三ウ―十四オ、十六ウ―十七オ。

絵師　未詳。

節譜　三重、つれふし、道行、〻。句切はない。

備考　本書は『金平浄瑠璃正本集　第二』の三十四番に採用された本である。題簽を欠くのみで原装の面影をとどめる。詳細は右書解題参照。ただし初印本か否かをめぐって刊年記の下に書店名のない点を問題とされているが、後に削ったと見るより、字の大きさや配置から見て元来ここには板元の名はなかったと見るべきであろう。

48 〔頼光跡目論〕

装幀　中形本。一冊。一八・一×一三・三。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・六×一一・九。

内題　なし。巻頭の内題のあるべきところに「丹波少拯平正信直之正本也」とあり、下に「和泉」の壺形印。

所属　丹波少掾平正信。

段数　六段。二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。ただし初段はない。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者太夫直之以正本写之」令開板者也」作者」岡清兵□（衛カ）」鴈來上旬」　板」とある。

板元　未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　十九丁。

板心　上方に「あとめ」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□…□、七、八、□、□、十一、□、□、十四、□、十六、□、□、□」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、八ウ―九オ九ウ―十オ、十三ウ―十四オ、十七ウ―十八オ。　彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　ワキ、シテ、二人、と三段目にある。句切はない。

備考　本書は『金平浄瑠璃正本集　第二』の二十六番に採用された本である。巻頭の「丹波少拯平正信直之正本」とある上部空白部の削られたかと思われる状態、及び巻末の板元の名が削られているところから、本書は再印本と思われる。右書解題では、前者は「天下　一」を削ったものと推定され、天下一号天和二年七月禁止後の刊行とされている。元板は寛文初年の刊行であろう。この『頼光跡目論』には江戸板、上方板を合わせて多くの本が残っているが、丹波少掾の在名正本は本書が唯一のものである。

49　清水の御本地

装幀　中形本。一冊。一九・〇×一三・四。

表紙　元表紙。空色系の具引き紙に、菱形金色の菊花、唐草模様。

題簽　欠。現在は「清水の御本地」と墨書した紙を表紙左上に貼る。

匡郭　一七・四×一二・三。

内題　「清水の御本地」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者太夫直之以正本ヲ」写之令板行者也」うろこかたや」新板」とある。

板元　江戸、うろこかたや

行数　十六行。

丁数　十二丁。

板心　上方に「水」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一・二・五・八…十二丁）。ロ（三・四・六・七丁）。

イ

ロ

丁付　「一…十二」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ七ウ―八オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第九』の百六十五番に採用された本である。本文十二頁分、挿絵十二頁分と挿絵の多い本である。この挿絵について正本集の解題では、水谷不倒氏のいわれる第一類の画系とされ、本書　の帙表紙にも「第一類の画系」と記されている。

50　高丸悪路王責

装幀　中形本。一冊。一八・四×一三・二。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・九×一二・〇。

内題　「高丸悪路王責」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段(一)だんめ…六だんめと、各段の始め下方に記す。ただし、三・四・五段は「たんめ」。

刊記　終丁裏本文末に「右者太夫直之以正本写之令板」行者也」とある。

板元　未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　十丁。

板心　上方に「あくろ」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ(一・…五・八・九丁)。ロ(六・七・十丁)。七丁目の板心に切継修正の跡あり。板木を繋ぎ合わせた跡であろうか。

イ

ロ

丁付　「□、二、三ノ六、七、八、九、□、十一ノ五、十六、十□」。

挿絵　六頁分(見開き三)。一ウ―二オ、四ウ―五オ、九ウ―十オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第六』の百二十五番に採用されている。本書は後印の省略改変本であり、元板の三、四、五、六丁を削除して新しく現在の三丁目(丁付「三ノ六」)を新刻し、また同じく十一、十二、十三、十四、十五丁目を削除して現在の八丁目(丁付「十一ノ五」)を新刻している。新刻の時期は正徳から享保頃の間であろう。

51　坂上田村丸誕生記

装幀　中形本。一冊。一八・八×一三・三。改装総裏打。
表紙　元表紙。雷紋つなぎ菊花紋。元表紙の上に替表紙が付く。
題簽　欠。
匡郭　一七・二×一二・四。
内題　「坂上田村丸誕生記」。下に「初段」。
所属　未詳。
段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。
刊記　終丁裏本文末に「右此本者太夫直傳之以正本ヲ」一字一点あやまりなく写之令」板行者也」貞亨四年正月吉日」大傳馬三町目」うろこかたや新板」とある。
板元　江戸、うろこかたや。
行数　十七行。
丁数　十二丁。
板心　上方に「田」、下方に丁付。板心の形式は一種。五、七、八丁目の板心に切継修正の跡あり。

丁付　「□、三、六、七、八ノ九、十、十一、一ノ十二、十三…十六」。
挿絵　六頁分（見開き三）。一ウ―二オ、六ウ―七オ、十ウ―十一オ。
絵師　未詳。
節譜　なし。
備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第六』の百二十四番に採用されている。丁付と板心の切継の跡からみて、本書は再印の省略本である。

52　四天王若さかり（頼光勇力諍）

装幀　中形本。一冊。一八・四×一三・四。改装。

表紙　替表紙。

題簽　改装。東大本の「北国落」に貼られている題簽（『金平浄瑠璃正本集　第一』図版五九六頁）を模して、表紙左上に貼る。

匡郭　一六・七×一二・三。

内題　「四天王若さかり」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

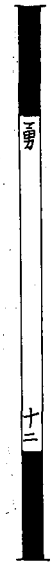
刊記　終丁裏本文末に「右此本者太夫直傳之正本を以テ」令板行者也」大傳馬三町目」うろこがたや新板」とある。

板元　江戸、うろこがたや。

行数　十六行。

丁数　十四丁。

板心　上方に「勇」、下方に丁付。板心の形式は一種。



丁付　「一…四、五ノ六、七…十五」。

挿絵　十頁分（見開き五）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、七ウ―八オ、十ウ―十一オ、十三ウ―十四オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切は黒丸点。

備考　本書は『金平浄瑠璃正本集　第二』の三十八番に採用された本である。また本書は貞享元禄頃の再刻本であるが、初印本の外題は『四天王頼光勇力諍』であろうと推定されている（『金平浄瑠璃正本集』第一・第二解題）。

53　なすの与一舟いこん

装幀　中形本。一冊。一九・七×一四・〇。現在は裏打して改装されているが、元の紙の大きさは一七・六×一三・二。

表紙　元表紙。藍無地。元表紙の上に替表紙が付く。

題簽　欠。現在は表紙に「なすの与一舟いこん　完」と墨書。

匡郭　一六・四×一二・三。

内題　「なすの与一舟いこん」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「通油町　新開板」とある。

板元　通油町のみで板元未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　十六丁。

板心　上方に「舟」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一丁）。ロ（二…十六丁）。

イ

ロ

丁付　「一…十五、十六終」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十二ウ―十三オ、十五ウ―十六オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　『古浄瑠璃正本集　第三』の七十番の解題に本書は紹介されている。七十番東大図書館本は京八文字屋板、『なすの興一竹生嶋詣付舟いこんの事』の内題を持ち、外題は「ふないこん」とある十一段の珍しい書であるが、本書はそれをそのまま六段に構成し直した江戸板。八文字屋板は寛文三年六月の刊行であるが、本書は板式から判断して貞享頃と考えられる。

54　たけち合戦

装幀　中形本。一冊。一八・五×一三・三。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・七×一二・三。

内題　「たけち合戦」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二段目…六段目と、各段の始め下方に記す。二段目以下は重郭付き、四隅に菊花の模様入りの中に段数を入れる。

刊記　終丁表本文末に「右大夫直之正本を以令板行」者也」　小濱屋開版」とある。

板元　小濱屋。江戸板。

行数　十七行。

丁数　十五丁半。

板心　上方に「たけち」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、二、□、四、□、七、八…十四、十五ノ六、十七、□」。

挿絵　八頁分（見開き四）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ、彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　三重、〜。句切はない。

備考　本書は『金平浄瑠璃正本集　第二』の四十番に採用されている。段名の記法に特徴があり、重郭で菊花模様を入れる。貞享頃の江戸での刊行と考えられるが、『大和守日記』の万治四年二月の条に『たけち合戦』の書名があるところから、本曲は同日記記入時以前に上演・刊行されたと推定される。

55　童子若さかり

装幀　中形本。一冊。一八・二×一三・三。改装。

表紙　替表紙（青山表紙）。

題簽　欠。「元禄旧刻」稗史」童子」　若」さかり」と墨書した蜀山自筆の替題簽を貼る。

匡郭　一七・〇×一二・三。

内題　「童子若さかり」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「小濱□」とある。

板元　小濱屋。江戸板。

行数　十七行。

丁数　十四丁。

板心　上方に「とうし」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…七、七ノ八、十…十四、十五」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ、九ウ―十オ、十一ウ―十三オ、十三ウ―十四オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　「三重」だけがある。句切はない。

備考　『古浄瑠璃正本集　第三』の五十五番の解題で本書が紹介されている。五十五番国会図書館本は、内題は「酒典童子若壮」、外題は一部破れがあるが「どうじ若ざかり」かと思われる。江戸さつま太夫の正本（五段）で、万治三年八月京の山本九兵衛板（半紙本）である。本書はそれと同内容で六段、元禄初年頃の江戸板である。

56　聖徳太子御伝記

装幀　中形本。一冊。一九・七×一三・八。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・八×一二・〇。

内題　「聖徳太子御傳記」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「うろこかたや新板」とある。

板元　江戸、うろこかたや。

行数　十六行。

丁数　十三丁。

板心　上方に「大子」「太子」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（二丁）。ロ（一、三…十三丁）。八丁、十三丁目の板心に切継修正の跡あり。

イ　一　太子　二　八

ロ　太子　七

丁付　「一、二、三四、五…八、九ノ十、十一…十四、十五六」

挿絵　六頁分（見開き三）。一ウ―二オ、五ウ―六オ、十ウ―十一オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第八』の百五十八番に採用された本である。丁付、板心の切継の跡から判断して、本書は省略改変本である。本来は十六丁本であったのを、挿絵を三丁分省略したものと考えられる。

また右書解題で、本書が若月保治氏の紹介された上方板の「聖徳太子御伝記」（仮題）とほぼ同内容であり、その上方板が山本角太夫正本であろうとされている。

57　源氏萬歳（源氏万歳楽）

装幀　中形本。一冊。一八・〇×一三・九。改装。

表紙　替表紙。

題簽　元題簽は表紙見返しに貼られている。中央に「源氏万歳楽」と大きくあり、右に「井緑鬼白女　中山万太夫」、左に「柳緑花赤男　さつま外記」とある。界線をおいて下に「大傳馬㊥」三町目」。現在の表紙の左上には、黄色の紙に「源氏万歳楽」と墨書した紙を貼る。

匡郭　一六・五×一二・一。

内題　「源氏萬歳」。下に「初段」。

所属　中山万太夫、さつま外記。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者中山万太夫薩广外記直傳之以正本令板行者也」とある。

板元　江戸、㊥。

行数　十七行。

丁数　十二丁。

板心　上方に「まんさい」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…三、四五、六七、八、九十、十一…十五」。

挿絵　八頁分（見開き四）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『金平浄瑠璃正本集　第三』の七十六番に採用された本である。中山万太夫、薩摩外記について同書に詳しい解題があり、本書を元禄中頃の刊行と推定する。

58　ゆいせき諍

装幀　中本型の半紙本。一冊。二三・〇×一六・一。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一七・一×一二・四。

内題　「ゆいせき諍」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者太夫直傳之以正本無相違」写之候て令板行者也」通塩町」鎰屋新板」とある。

板元　江戸、鎰屋。

行数　十七行。

丁数　十四丁。

板心　上方に「そか一」（一…三、五…十四丁）、「そか」（四丁）。下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「壹、二…十四」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、六ウ―七オ、八ウ―九オ、十ウ―十一オ、十二ウ―十三オ。

絵師　杉村治兵衛ヵ。

節譜　なし。句切は一部に白丸点がある。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第二』の四十四番に採用された本であり、七巻物の『曽我物語』の初巻に相当する。また本書とは別版の『曽我物語』七日分の目録の二丁が添付されている。

装幀　半紙型二葉。二二・六×一五・六。

匡郭　一八・六×一三・二

丁付　「一」、「二」

初日「ゆいせきそが物かたり」、二日め「こんげんそが物かたり」、三日め「頼朝御代始石橋山合戦」、四日め「きりかねそが」、五日め「小袖そが物がたり」、六日め「十ばんぎり」、七日め「ついぜんそか物かたり」とある。各巻六段で段ごとに標題もあるが、詳細は正本集解題参照。

本文庫には、七巻物の『曽我物語』の内、六巻分がある。その内、明暦頃の板を襲った再印本は、四巻（本目録六十一番、板元不明）、五巻（六十三番、板元不明）、七巻（六十四番、山形屋利平板）の三本であり、鎰屋の再刻本は、一巻（本書）、二巻五十　九番）、三巻（六十番）、四巻（六十二番）の四本であるが、四本それぞれ内題の形式・刊年記等に異同があり、同時期にシリーズ物として出版したものかどうか明らかでない。

59 曽我物語（かわづまたのすまひろん）

装幀　中本型の半紙本。一冊。二三・〇×一八・一。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一七・一×一二・三。

内題　「曽我物語（かわづまたのすまひろん）」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者太夫直傳之以正本無相違」写之候て令板行者也」通塩町」鎰屋新板」とある。

板元　江戸、鎰屋。

行数　十七行。

丁数　十五丁。

板心　上方に「そか二」「そノ二」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「壹、二…十五」。

挿絵　十四頁分（見開き七）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ、七ウ―八オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ、十三ウ―十四オ。

絵師　杉村治兵衛ヵ。

節譜　なし。句切は白丸点と黒丸点の混用。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第二』の四十五番に採用された本であり、七巻物の『曽我物語』の第二巻に相当する。

60　石ばし山

装幀　中本型の半紙本。一冊。二三・〇×一六・二。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一七・〇×一二・三。

内題　「三日め石ばし山」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者太夫直正本也　通塩町」かぎや新開板」とある。

板元　江戸、かぎや。

行数　十七行。

丁数　十六丁。

板心　上方に「そか三」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「壹、二…十六」。

挿絵　十四頁分（見開き七）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ、七ウ―八オ、九ウ―十オ、十二ウ―十三オ、十四ウ―十五オ。

絵師　杉村治兵衛ヵ。

節譜　なし。句切は一部に白丸点。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第二』の四十六番『石ばし山』の解題で紹介されている本であり、七巻物の『曽我物語』の第三巻に相当する。

61　きりかね

装幀　中本型の半紙本。一冊。二二・二×一五・七。

表紙　元表紙。縹色無地。

題簽　欠。

匡郭　一七・〇×一二・一。

内題　「きりかね」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二段目…六段目と、各段の始め下方に記す。

刊記　なし。

板元　未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　十四丁半。

板心　上方に「そノ四」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、三、四、五六、□、八…十五、十六十七、□」。

挿絵　八頁分（見開き四）。二ウ―三オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第二』の四十七番に採用された本と思われる。七巻物の『曽我物語』の四巻目に相当する。本書は明暦頃の板を襲った再印本である。丁付に、五六、十六十七、とあるのは再印の時に挿絵を省略したと考えられ、再印の時期は元禄頃であろう。挿絵も明暦の絵を襲うが崩れも見られる。本書は六十三番（板元不明）、六十四番（山形屋利平板）と同系の書であるが、三本それぞれ少しく異同があり、その出版の前後関係等明らかでない。

62　きりかね

装幀　中本型の半紙本。一冊。二二・九×一六・一。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・八×一二・四。

内題　「四日め　きりかね」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者太夫直傳之以正本ヲ無相」違写之令板行者也」元禄五年壬申初春吉日　通塩町」鎰屋新板」。

板元　江戸、鎰屋。

行数　十七行。

丁数　十六丁。

板心　上方に「きり」下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「壹、二…十六」。

挿絵　十四頁分（見開き七）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ、七ウ―八オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ、十四ウ―十五オ。

絵師　杉村治兵衛ヵ。

節譜　なし。句切は白丸点で数ヶ所ある。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第二』の四十七番『きりかね』の解題で紹介されている本である。本文詞章は本目録六十一番の『きりかね』に一致し、共に七巻物の『曽我物語』の三巻目に相当する。

63 釼さんだん

装幀　中形本。一冊。一九・〇×一三・三。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・八×一二・〇。

内題　「釼さんだん」。下に「初段」。但し内題上に空白がある。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二段目…六段目と、各段の始め下方に記す。

刊記　なし。

板元　未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　十四丁。

板心　上方に「その五」、下方に丁付。板心の形式は一種。一、五、十四丁目の板心に切継修正の跡あり。

丁付　「二…五、六七、八…十五、十六十七」。

挿絵　八頁分（見開き四）。二ウ―三オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第二』の四十八番に採用された本で、七巻物の『曽我物語』の五巻目に相当する。本目録六十一番の『きりかね』と同じく、本書も明暦頃の板を襲った再印本である。但し書形は『きりかね』が半紙本であり、本書は中本である。

64 ぜんじそが

装幀　半紙本。一冊。二二・〇×一五・五。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・九×一二・一。

内題　「ぜんじそが」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二段目…六段目と、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「江戸通油町」山形屋利平板行」とある。

板元　江戸、山形屋利平。

行数　十六行。

丁数　十四丁。

板心　上方に「そノ七」、下方に丁付。板心の形式は一種。七、九、十丁目の板心に切継修正の跡あり。

丁付　「一…六、七八、九、十一、十二十三、十四…十七」。

挿絵　八頁分（見開き三、片面二）。一ウ―二オ、三オ、五ウ―六オ、十二オ、十三ウ―十四オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第二』の五十番に採用され前島春三氏蔵本とされていた本である。七巻物の『曽我物語』の第七巻に相当する。正本集の解題で、本書終丁裏の郭上に墨書がある旨が記されているが、現在はその部分を切り抜き、裏より別紙で裏打されている。

表紙見返しに、「レイン氏蔵『曽我七日分挿絵集』によるとこの『ぜんじ曽我』の挿絵は省略はない。挿絵よけれど汚点あり」という、横山重氏の識語が貼られている。

65　北条五代記

装幀　半紙本。七冊。（一之巻）二二・五×一五・〇。（二之巻以下）二二・五×一五・四。

表紙　元表紙。鼠色無地。

題簽　一之巻にのみ残る。重郭。上に「絵入」と横書きし、界線をおいて「北条五代記」と大きく記す。下部は欠破。他の巻では欠落。三・四・六・七之巻の表紙には、題名と巻数を墨書。

匡郭　（一・二之巻）一七・二×一二・一。（三之巻）一七・三×一二・二。（四之巻）一七・一×一二・二。（五之巻）一七・三×一二・二。（六之巻）一七・〇×一二・一。（七之巻）一七・二×一二・三。

内題　各巻ともに「北条五代記」。下に「一…七之巻」。

所属　未詳。

段数　各巻六段。各巻とも、第二…第六と、各段の始め下方に記す。ただし四之巻の第六だけがなく、段数があったと思われる所に、一行あきがある。

刊記　終丁裏本文末に次のように記す。（一・二・四之巻）「うろこかたや開板」。（三・五・六之巻）「北条五代記三（五・六）之巻終　鱗形屋開板」。（七之巻）元禄十年卅正月吉日」北条五代記七之巻終」大傳馬三町目」うろこかたや孫三郎板」。江戸、鱗形屋孫三郎。

行数　各巻十六行。

丁数　各巻十三丁。

板心　（一之巻）上方に「北条壱」、（二之巻）「北条二」、（三之巻）「北条三」、（四之巻）「北条四」、（五之巻）「北条五」、（六之巻）「北条六」、（七之巻）「北条七」。各巻とも下方に丁付。

板心の形式。一・二・三・四・六・七之巻は一種。五巻は二種。イ（一・二・三・四・六・七之巻の全丁。五之巻の一…五、七…十二丁）。ロ（五之巻の六・十三丁）。

イ

ロ

丁付　各巻「初二、三…十四」。

挿絵　各巻八頁分（見開き四）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、七ウ―八オ、十一ウ―十二オ。一部に彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　『古浄瑠璃正本集　第七』の百四十七番に採用された本である。

66　太平記

装幀　半紙本。五巻分合冊（全七巻の内、四・七之巻欠）。各巻の間には白紙を一枚づつ入れる。二一・六×一五・六。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　（一之巻）一六・四×一二・〇。（二之巻）一六・三×一二・〇。（三之巻）一六・四×一二・〇。（五之巻）一六・五×一二・一。（六之巻）一六・三×一二・〇。

内題　一之巻では「太平記　一之巻」。各巻とも同形式で巻数だけが変わる。所属　未詳。

段数　各巻六段。各巻とも、第二…第六と、各段の始め下方に記す。

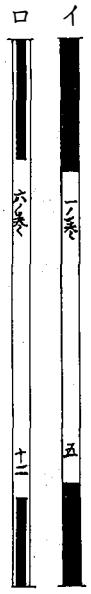
刊記　各巻とも終丁裏本文末に同じ形式の尾題を持つ。一之巻では「太平記一之巻終」。巻数のところだけが各巻で変わる。二之巻だけは「二ノ巻」。

板元　未詳。江戸板。

行数　各巻ともに十七行。

丁数　各巻十二丁。

板心　各巻上方に「一ノ巻」「二ノ巻」「三ノ巻」「五ノ巻」「六ノ巻」、下方に丁付。板心の形式は、一之巻、二ノ巻、三ノ巻、五ノ巻は一種。六之巻は二種。イ（一之巻、二之巻、三之巻、五之巻の全丁。六之巻の一…九・十二丁）。ロ（六之巻の十・十一丁）。また、一之巻の六丁目、二之巻、三之巻の九丁目、六之巻の三丁目に切継修正の跡あり。



丁付　（一）「初ノ二、三…六、七ノ八、九…十四終」。（二）「初ノ二、三…九、十ノ十一、十二…十四終」。（三・五）「初二、三…九、十ノ十一、十二…十四」。（六）「初ノ二、三、四、五ノ六、七…十四」。

挿絵　一・二・三・五之巻は八頁分（見開き四）。六之巻は六頁分（見開き三）。

（一之巻）一ウ―二オ、三ウ―四オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ。（二・三・五之巻）一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、十一ウ―十二オ。（六之巻）一ウ―二オ、六ウ―七オ、十ウ―十一オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第七』の百四十五番に採用された本である。但し正本集では、欠巻の四之巻を国会図書館本、七之巻を西尾市立図書館本（内題「楠軍記」）で補っている。

67 追加太平記

装幀　半紙本。七冊。（一・二・三・六巻）二二・六×一五・六、（四・七巻）二二・五×一五・六、（五巻）二二・六×一五・七。

表紙　元表紙。各巻ともに黄土色無地。

題簽　一之巻は剝落して、重郭と文字の一部が残るのみであるが、二之巻以下には題簽が残る。重郭。上部に「ゑ入」と横書し、その下中央に「太平記」と大きくあり、その右下に「二之巻」のように巻数を入れる。七巻だけは「七之巻終」。但し、「二」「三」のような巻数の数字、及び七之巻の「終」という字は墨書されたものであり、これら題簽は巻数を入れないで作られたものを用いている。

匡郭　（一之巻）一五・八×一一・九。（二之巻）一六・七×一一・九。（三之巻）一六・五×一一・八。（四之巻）一六・五×一二・〇。（五之巻）一六・三×一一・九。（六之巻）一六・二×一二・〇。（七之巻）一六・三×一二・〇。

内題　（一之巻）「追加太平記壱之巻」。下に「初段」。
（二之巻）「太平記二之巻義貞二代軍」。下に「初段」。
（三之巻）「太平記三之巻山崎合戦」。下に「第一」。
（四之巻）「太平記四巻新田大明神」。下に「第一」。
（五之巻）「太平記五之巻赤松合戦」。下に「第一」。
（六之巻）「太平記六之巻細川四國合戦」。下に「第一」。
（七之巻）「太平記七之巻東西軍記」。下に「第一」。

所属　未詳。

段数　各巻六段。（一・二之巻）初段、二たんめ…六たんめ、（三之巻以下）第一…第六と、各段の始めに記す。

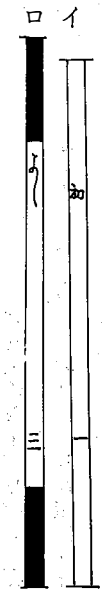
刊記　各巻、終丁裏本文末に次の如く記す。
（一之巻）「正月吉日」江戸大傳馬三町目」本問屋喜右衛門新板」。
（二之巻）「正月吉日」大傳馬三町目」本問屋喜右衛門板」。
（三之巻）「右者本書を以写令板行者也」正月吉日　大傳馬三町目　本問屋喜右衛門板」。
（四・五之巻）「正月吉日」江戸大傳馬三町目」本問屋喜右衛門板」。
（六之巻）「宝永七年庚子正月吉日」大てんま三丁め」本問や喜右衛門板」。
（七之巻）「此跡より後太平記七巻ニ板行仕候」宝永七年庚寅正月吉日」大てんま三町目」本問屋喜右衛門板」。

板元　江戸、本問屋喜右衛門。

行数　（一之巻）十七行。（二之巻以下）十六行。

丁数　（一之巻…六之巻）十二丁。（七之巻）十一丁。

板心　（一之巻）上方に「初」。（二之巻）上方に「よし」。（三之巻）上方に「山」。（四之巻）上方に「大明神」。（五之巻）上方に「あか松」。（六之巻）上方に「ほそ」。（七之巻）上方に「とう」。各巻とも下方に丁付。板心の形式は、一・三・四・五・六・七巻は一種。二巻のみ二種。イ（一・三・四・五・六・七巻の全丁、二巻の一・二・四・六…十丁）。ロ（二巻の三・五・十二丁）。



丁付　（一之巻）「一…四、五ノ七、八…十四」。（二之巻）「一…六、七ノ十、十一…十五」。（三之巻）「一…六、七ノ十、十一…十五」。（四之巻）「一…四、五ノ七、八…十四」。（五之巻）「一…四、五ノ七、八…十四」。（六之巻）「一…六、七ノ十、十一…十五」。（七之巻）「一…八、九ノ十一、十二ノ三、十四」。

挿絵　各巻八頁分（見開き四）。各巻とも、一ウ―二オ、四ウ―五オ、七ウ―八オ、十ウ―十一オ。

絵師　一之巻の五オに「ゑし奥村政信」、二之巻の一ウに「ゑし政信」とある。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第七』の百四十六番に採用された本である。一之巻から五之巻の「正月吉日」の上部に空白があり、再印本と推定され、そのことは東大文学部国文学研究室蔵の一之巻に「宝永四丁亥年正月吉日」の刊年記があることから立証される。本書は本目録六十六番の『太平記』の続篇となる七巻物で、大東急記念文庫蔵の『後太平記』が本書に続く七巻物となっている。

68 〔三社詫宣〕

装幀　中形本。一冊。一八・五×一三・〇。

表紙　元表紙ヵ。黒無地。

題簽　欠。

匡郭　一六・五×一一・七。

内題　巻頭落丁のため不明。

所属　未詳。

段数　六段。「一たんめ」、「三たんめ」、「四段め」、「五段め」、「六たんめ」と、各段の始め下方に記す。

刊記　なし。

板元　未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　十五丁。但し元は十六丁ヵ。

板心　上方に「宅」、下方に丁付。但し三丁には「宅」の字はない。

板心の形式は二種。イ（一・三丁）。ロ（二・四…十四丁）。

丁付　「□…、十二、十三、□、□、□」。

挿絵　十一頁分（見開き五、片面一）。一オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ、十四ウ―十五オ。

絵師　未詳。杉村治兵衛系ヵ。

節譜　「三重」のみ。句切はない。

備考　本書は『古浄瑠璃正本集　第八』の百六十二番に採用された本である。破れや汚れが多い。一オ・一ウの一丁分が欠けており、一ウは挿絵で現在残る二オと見開きの図を成していたものと思われる。

『三社詫宣由来』の加賀掾正本は、延宝六年正月に、山本九兵衛と鶴屋喜右衛門から刊行されているが、本書は現存唯一の江戸板である。

69 〔大友真鳥〕

装幀　中形本。一冊。一八・七×一三・五。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・〇×一二・一。

内題　内題の部分が削除され、下方に「初段」とある。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右者太夫直之正本誤無写是令板行者也」享保□年正月吉日」大傳馬三丁目」うろこがたや孫兵衛新板」とある。

板元　江戸、うろこがたや孫兵衛。

行数　十六行。

丁数　十丁。

板心　上方に「取」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「初二、三…六、七八、九…十二」。

挿絵　八頁分（見開き四）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ。

絵師　二オの挿絵左上に「近藤助五郎清春図」とある。

節譜　なし。句切もない。

備考　『古浄瑠璃正本集　第三』の六十五番『大友のまとり』解題に東大図書館蔵の江戸板（〔眞鳥兼道〕）が紹介されており、本書はこの東大本と同板と考えられる。ただし東大本が、段数を削除しているのに対し、本書では初段から六段目までの段数表記が残る。

70　金平かふとろん

装幀　中形本。一冊。一八・四×一三・三。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・四×一二・〇。

内題　「金平かふとろん」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二段目…六段目と、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「正月吉日」とのみある。

板元　未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　十丁。

板心　上方に「かふと」「かぶと」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、二…五六七、　□、九、□、□」。

挿絵　六頁分（見開き三）。一ウ―二オ、五ウ―六オ、九ウ―十オ。
彩色加筆あり。

絵師　未詳。西村重長ヵ。

節譜　なし。句切もない。

備考　『金平浄瑠璃正本集　第二』の二十七番に、東北大蔵の寛文三年版の『公平かぶとろん』が採用されている。同書の解題に、享保頃の江戸板として東大霞亭文庫本と、大東急記念文庫本の二本が紹介されているが、本書もこれらと同じ江戸板系。

71　よりちか童子

装幀　中形本。零葉三枚。一八・五×一三・一。

表紙　なし。

題簽　なし。

匡郭　一六・五×一二・一。

内題　「よりちか童子」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　未詳。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。江戸板。

行数　十七行。

丁数　三葉。ただし第一丁（丁付一）の裏の挿絵の左半分が失われており、第三丁（丁付七）は上方三分の一が欠破しており、裏の左三分の二がない。

板心　上方に「よりちか」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一・四・七」。

挿絵　三頁分。丁付「一」の丁の裏、丁付「四」の丁の表、丁付「七」の丁の表。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切はない。

備考　欠破の多い三葉であるが、未紹介の金平浄瑠璃の正本であり、板式、挿絵等から判断して、享保頃の刊行と推定される。題名にある「よりちか」は、源頼光の嫡子とされ、『頼光跡目論』等にも登場する人物である。渡辺綱の弟、広綱も登場する点等からも、『頼光跡目論』と関係する作であると推定される。但し金平の姉の「たちばな姫」が活躍する事等、他の金平物ではみられない場面もある。金平浄瑠璃における頼親の扱いについては、「語文」四十五輯「創成期の金平浄瑠璃」（秋本鈴史）参照。

72 〔をくり〕

装幀　半紙本。一冊。二一・八×一五・五。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一九・七×一四・五。

内題　巻頭落丁のため不明。

所属　未詳。

段数　六段ヵ。「四たんめ」、「五段目」、「六段目」と、各段の始め下方に記す。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十六行。

丁数　十一丁。落丁本。

板心　上方に「をくり」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□…、下九、□…」。

挿絵　七頁分（見開き三、片面一）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、七オ、九ウ―十オ。

絵師　未詳。

節譜　太夫、色ふし、色、ふし、ワキ、ユリ、上、かいたう下り、さんさふし、本田哥ふし、七ユリ、色なけきふし、うたいふし、引、コトハ。句切はない。

備考　本書は『説経正本集　第二』附録五『おぐり物語』の解題でR・レイン氏蔵本として紹介されている本である。落丁の多い本であるが、江戸板の草子と関係の深い正本で、中・下巻だけ残る草子の上巻の内容を考える上で参考となる書である。板式や挿絵から判断して、万治か寛文初年頃刊行された上方板であると推定される。

73　おぐり判官

装幀　半紙本。一冊。二一・八×一六・一。改装総裏打。

表紙　元表紙ヵ。黒無地。

題簽　欠。

匡郭　一九・九×一五・一。

内題　「おぐり判官」。上に「第一」。

所属　未詳。

段数　六段。「第一おぐり判官」、「第二おぐりてるてたいめん并おにかげきよくのりの事」、「第三てるて夢物がたり并おぐりさいごの事」、「第四てるてゑちごの国よりみの、国長。かいとむる」、「第五てるて車をひき給ふ并みち行の事」、「第六おぐりよみがへり并本国しよち入の事」、と各段と始めに記す。但し、第一と第四は二行分を使って大きく記し、第四は十二オの初行から始まる。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。上方板。

行数　十七行。

丁数　十八丁半。

板心　上方に「おくり」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「上二…上十二、下二…下八、□」。

挿絵　十四頁分（見開き六、片面二）。一ウ―二オ、四オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十二ウ―十三オ、十四ウ―十五オ、十六オ、十七ウ―十八オ。

絵師　未詳。

節譜　せめ、ワキ、太夫、ゆり、さんさふし、ふし、七つゆり、色なきふし、かいとう下り。句切は黒丸点。

備考　本書は『説経正本集　第二』の十九番『おぐり判官』解題に、小山源治氏蔵本として紹介された寛文六年山本板と同板と思われる。巻末三丁が欠落している。

74　あいこの若

装幀　中形本。一冊。一八・二×一三・四。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・三×一二・三。

内題　「あいこの若」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右者太夫直之以正本写之者也　新板」とある。

板元　未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　十八丁。

板心　上方に「あ」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、二…十八」。

挿絵　十三頁分（見開き五、片面三）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、八オ、十オ、十一オ、十二ウ―十三オ、十四ウ―十五オ、十六ウ―十七オ。

絵師　未詳。

節譜　ことば、三重、ワキ、ふし、キリ。句切はない。

備考　本書は『説経正本集　第二』二十二番『あいこの若』の解題で前島春三氏蔵本として紹介されている本である。同解題では本書の刊行を寛文年中と推定するが、板式からみて寛文板を改板したもので年代は更に下ると思われる。

75　阿弥陀胸割

装幀　中形本。一冊。一八・五×一三・五。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は短冊形の紙に「阿弥陀胸割」と墨書し、その下方に「天満八太夫正本」村田屋開板」と小さく二行に書く。又朱筆で「六字南無右衛門作」柳亭種彦考証附」ともある。高野辰之氏筆。

匡郭　一六・五×一二・二。

内題　「阿弥陀胸割」。下に「初段」。

所属　天満八太夫。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始めの下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右者天満八太夫直正本也」通油町」村田屋開板」とある。

板元　江戸、村田屋。

行数　十六行。

丁数　十二丁。

板心　上方に「あみた」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…五、六七、八…十三」。

挿絵　十四頁分（見開き七）。一ウ―二オ、二ウ―三オ、四ウ―五オ、六ウ―七オ、八ウ―九オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ。一部に彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は、古典文庫『説経浄瑠璃集　二』の解題で、種彦旧蔵本として紹介されている本である。巻頭に種彦自筆とされる考證風の識語一紙があり、表紙裏表紙見返しに旧蔵者高野斑山氏の識語がある。同じく『説経正本集　第三』三十八番『阿弥陀胸割』解題にも本書について記す。鱗形屋中本の元禄頃の複刻であろう。

76 すみだ川

装幀　中形本。一冊。一九・七×一五・三。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は、上に「すみだ川」、下に「貞享ごろ鱗屋刊」、「説経正本なるべし　三巻本」とペン書した紙を、表紙左上に貼る。

匡郭　一六・七×一二・二。

内題　「すみだ川」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…五たんめ、六だんめ、と各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右者太夫直之正本也」大傳馬三町目」うろこかたや孫兵衛」とある。

板元　江戸、うろこかたや孫兵衛。

行数　十六行。

丁数　十二丁。

板心　上方に「角」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一、□、三四、五…十三」。

挿絵　八頁分（見開き四）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、六ウ―七オ、十ウ―十一オ。

絵師　未詳。杉村治兵衛ヵ。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『説経正本集　第三』の三十六番に採用された本である。題簽のペン字は横山重氏の筆であるが、三巻本と書かれたのは、明暦二年江戸板草子『角田川物かたり』三巻本と関係が深い書であるからである（『説経正本集』附録十一解題参照）。なお本書の刊年は 板式や挿絵からみて元禄初年頃と推定される。

77 〔ほん天こく〕

装幀　中形本。一冊。二〇・〇×一四・三。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は「梵天国」と墨書した紙を、表紙左上に貼る。

匡郭　一六・二×一二・四。

内題　巻頭落丁のため不明。

所属　未詳。

段数　六段。二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。初段とあるべき巻頭は落丁。

刊記　なし。

板元　未詳。江戸板。

行数　十七行。

丁数　十丁。落丁本。

板心　上方に「ほん天」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、四…六、□、九…十一、十三、十四」。

挿絵　六頁分（見開き三）。二ウ―三オ、五ウ―六オ、九ウ―十オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は説経正本の他本とも、古浄瑠璃の寛文元年板とも異なる本文を持つ。初段は破損しているが、羅仙国のばらもん王を四天王が捕え鉄の獄屋に入れるところで終り、こうした経緯をもつ本は他にない。その他、独自の展開をもつ箇所が多く、内容については後考を俟つ。その刊年は板式等から元禄頃の刊行と推定される。説経系か古浄瑠璃系かについても問題は残るが、一応説経系の中に収める。

78 伍太力菩薩

装幀　中形本。一冊。一八・五×一三・三。改装。

表紙　替表紙。

題簽　表紙の左上に貼られているが、大半が破れて失なわれている。僅かに匡郭の一部と「恋」の一字がみえる。

匡郭　一六・七×一二・三。

内題　「伍太力菩薩」とあり、その下破れ。更にその下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ、四たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。「三たんめ」とあるべき所は落丁。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。江戸板。

行数　十七行。

丁数　八丁。落丁本

板心　上方に「五大力」「五太力」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、二、三、六…九、十ノ□」。

挿絵　四頁分（見開き二）。一ウ―二オ、五ウ―六オ。彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切は黒丸点で数ヶ所にある。

備考　『説経正本集　第三』の四十二番に、東北大学蔵の鱗形屋板『伍太力菩薩』が採用されているが、同書の解題に本書が紹介されている。落丁は三丁分と思われ、宝永頃の板行と推定されている。

79　毘沙門之本地

装幀　中形本。一冊。一八・五×一四・〇。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一六・八×一二・四。

内題　「毘沙門之本地」。下に「初段」。

所属　未詳。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。江戸板。

行数　十六行。

丁数　九丁半。落丁本。

板心　上方に「毘」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、□、□、□、六、□…□」。

挿絵　六頁分（見開き三）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、八ウ―九オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　『説経正本集　第三』の四十番に、岩瀬文庫蔵うろこかたや板十六行十二丁半本が採用されている。本書は岩瀬本系の後印改変本と考えられる。三ウ―四オの挿絵一丁が欠け、巻末に絵一丁を含む二丁分の落丁をもつ本と思われる。四十番解題では岩瀬本の「卯」を宝永辛卯八年としたが、元禄己卯十二年である可能性もあり、本書はさらにそれより後、宝永頃の刊行と思われる。

80　大福神弁才天御本地

装幀　中形本。一冊。一八・七×一三・三。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一七・一×一二・四。

内題　「大福神辨財天御本地」。下に「初段」。

所属　天満八太夫、天満重太夫。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

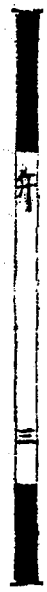
刊記　終丁裏本文末に「右は天満八太夫重太夫正本也」大傳馬三町目」うろこかたや板」とある。

板元　江戸、うろこかたや。

行数　十七行。

丁数　十二丁。

板心　上方に「弁」、下方に丁付。板心の形式は一種。



丁付　「一…五、六ノ八、九十、十一二、十三四、十五…十七」。

挿絵　八頁分（見開き四）　一ウ―二オ、三ウ―四オ、八ウ―九オ、十一ウ―十二オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『説経正本集　第一』の十六番に採用された本である。板式や挿絵からみて元禄頃の板行と推定される。

81　しんとく丸

装幀　中形本。一冊。一八・四×一三・一。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は中央に「しんとく丸」、左に「をとひめ道行」大坂七太夫正本」と墨書したものを、表紙左上に貼る。これは東大霞亭文庫蔵の十七行半紙本の題簽を模したもの。

匡郭　一六・五×一二・〇。

所属　未詳。

内題　「しんとく丸」。

段数　段数は記されていない。但し、三オ、四オ、五オ、七ウ、十一ウに一行分の空白がある。内題下とあわせて、初段、二たんめ等とあったことが推定される。この内、七ウは十一行目の下より改刻されており、その間に一行分の空白がある。また八ウには「道行」と一行分を使って記されている。

刊記　終丁裏本文末に「大傳馬三町目」鱗形屋孫兵衛板」とある。

板元　江戸、鱗形屋孫兵衛。

行数　十六行。

丁数　十二丁。

板心　上方に「とく」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…六、七八、九、十ノ二、十三…十五」。

挿絵　六頁分（見開き二）。一ウ―二オ、六ウ―七オ、十ウ―十一オ。

絵師　未詳。

節譜　ことは、ワキ、三重、太夫、ふし。句切はない。

備考　本書は貞享三年五月うろこがたや板十六行本（早大演博蔵）の系統の書で、享保頃の板行であろう。岩瀬文庫に全く同板の書があり、奥付は本書と同じ鱗形屋板であるが、その題簽の板元紋章は山形に三ッ鱗の西村のそれであって、段数を削り、草紙として販売された西村板とみるべきであろう。

82　さんせう大夫

装幀　中形本。一冊。一七・八×一三・〇。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は表紙左上に「さんせう大夫」石見掾正秘傳」正本」と朱書。右上には「宝永七年」奥村政信画」と朱書した紙を貼る。

匡郭　一五・五×一二・〇。

内題　「さんせう大夫石見掾正秘傳」。下に「初段」。

所属　石見掾。

段数　六段カ。初段、二たんめ、四たんめ、五たんめと、各段の始め下方に記す。巻末落丁。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。江戸板。

行数　十七行。

丁数　六丁。落丁本。

板心　上方に「さんせう」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、三…五、□、十三」。

挿絵　三頁分（見開き一、片面一）。一ウ―二オ、四ウ。

絵師　未詳。

節譜　ワキことば、ことば、太夫ふし。句切はない。

備考　本書の本文は万治頃十六行上方板（半紙本）系で、他の天満八太夫系中本十七行十七丁、鱗形屋板とも多少の字句の異同がある。また挿絵の風も鱗形屋板とは異なり、本書は奥村風である。なお、貼紙の宝永七年の記事は根拠がない。『絵入浄瑠璃史』には宝永八年鶴屋喜右衛門板の記載があるが、本書はそれとも別板である。

83　ほうざうびく

装幀　中形本。一冊。一六・九×一三・〇。改装総裏打。

表紙　元表紙。黒無地。

題簽　元題簽。重郭。上方に「佛惣王」と横書き、界線をおいて下に「法蔵比丘」と大書。右に「ほうざうびく」、左に「あみたのほんぢ　結城孫三郎正本」と細書する。界線下に「西」（三ツ巴の紋）」村」とある。

匡郭　一五・八×一二・一。

内題　「ほうざうびく」。下に「初段」。

所属　結城孫三郎。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「正徳三年巳正月吉祥日」とある。板元の名は削る。

板元　江戸、西村屋。

行数　十六行。

丁数　十丁。

板心　上方に「法」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…十」。

挿絵　六頁分（見開き三）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、八ウ―九オ、彩色加筆あり。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『説経正本集　第二』二十五番の『ほう蔵びく』解題に紹介された、横山重氏旧蔵『ほう蔵ひく』正徳元年卯九月吉日、うろこかたや三左右衛門板、結城孫□郎正本（十七行）をもとに、かなに漢字を当て絵を一丁省き、縮めて改刻したものである。この書により、正徳元年板の「孫□郎」の不明箇所は「三」と判明する。

84　かるかや道心

装幀　半紙本。一冊。二二・五×一五・七。

表紙　元表紙。黒無地。

題簽　元題簽。重郭。上に「高野図」と横書き、界線をおいて中央に「かるかや」と大きくあり、右に「しげ氏みだい道行」、左に「石たう丸かうや入　天満孫四郎正本」とある。界線をおいて下に「大傳馬」▲屋」三町目」とある。

匡郭　二〇・二×一四・八。

内題　「かるかや道心」。下に「初段」。

所属　天満孫四郎。

段数　六段。初段、二段目…六段目と、各段の始め下方に記す。

刊記　なし。巻末が削られているヵ。

板元　江戸、鱗形屋。

行数　十七行。

丁数　十九丁。

板心　上方に「かるかや」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…十九」。

挿絵　十四頁分（見開き六、片面一）二ウ―三オ、五ウ―六オ、七ウ―八オ、十オ、十一オ、十三ウ―十四オ、十四ウ―十五オ、十七ウ―十八オ。

絵師　未詳。

節譜　ワキ、ふし、三重。句切はない。

備考　本書は『説経正本集　第三』の四十三番『弘知上人』の解題において紹介されている。また表紙題簽の写真も同書の口絵四に掲載されている。右解題では、『説経正本集　第二』十八番『かるかや道心』板本屋彦右衛門板、十七行十八丁本を鱗形屋で天和年中求板し、巻末の書肆名を削り、孫四郎の正本として発刊したものが本書と推定されている。しかし、挿絵のあり方を見ると、本書は見開図一面（十四ウ―十五オ分）が多く、高野山の風景を連続図二丁分展開している。彦右衛門板は明らかにその一丁分を省略したものであり、本書がその求板本とは考えにくい。すなわち、共に奥書部を改刻・削除しているところからみて両本は兄弟関係の書で、両本ともに拠った同板本の先行が考えられる。

85　しやかの御本地

装幀　半紙本。一冊。二二・〇×一五・八。改装総裏打。

表紙　元表紙。黒無地。

題簽　重郭。上部は欠破。中央に「□の本地」とあり、その左下に「天満八太夫」とみえる。下には「大傳馬」㊀」三町目」と三行。

匡郭　二〇・〇×一三・八。

内題　「しやかの御本地」。下に「初段」。

所属　天満八太夫。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右者太夫直傳の正本を以一字一点無誤うつし」令開板者也」大傳馬三町目　うろこかたや」孫兵衛新板」とある。

板元　江戸、うろこかたや孫兵衛。

行数　十七行。

丁数　十三丁。

板心　上方に「しやか」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「□、□、三…九、□、□、十二、□」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ、七ウ―八オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ。

絵師　奥村政信ヵ。

節譜　へ、ワキ、三重、ことは、をくり、なかし、三つゆり。句切はない。

備考　『説経正本集　第一』の十一番に、赤木文庫蔵の『しやかの御本地』が採用されているが、本書はこれと同板の別本であり、同書の解題で校訂用に使用したとされている本である。天満八太夫の所謂鱗形屋板半紙本シリーズの一本。

86　ゆり若大じん

装幀　半紙本。一冊。二二・二×一五・七。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は「ゆり若大じん」と大書し、下に「大傳馬町」三丁目」うろこ形」や孫兵」衛開板」と五行に記した題簽を貼る。

匡郭　一九・二×一三・五。

内題　「ゆり若大じん」。下に「初段」。

所属　天満八太夫（推定）

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者大夫直傳之正本を以」写之令板行者也」大傳馬三町目　うろこかたや」孫兵衛新板」とある。

板元　江戸、うろこかたや孫兵衛。

行数　十七行。

丁数　十三丁。

板心　上方に「ゆり若」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…十三」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ、七ウ―八オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ。

絵師　奥村政信ヵ。

節譜　なし。句切もない。

備考　『説経正本集　第三』の四十六番に、東大本の『ゆり若大じん』が採用されているが、本書はその東大本と同板本である。天満八太夫の所謂鱗形屋板半紙本シリーズの一本。

87　ほう蔵比丘

装幀　半紙本。一冊。二二・〇×一五・八。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一九・五×一四・七。

内題　「ほう蔵比丘」。

所属　天満八太夫（推定）。

段数　六段。二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

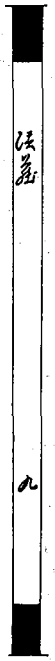
刊記　終丁裏本文末に「右此本者大夫直傳之正本を以是をうつし」令板行者也」大傳馬三町目」うろこ形や孫兵衛開板」とある。

板元　江戸、うろこ形や孫兵衛。

行数　十七行。

丁数　十三丁。

板心　上方に「法蔵」、下方に丁付。板心の形式は一種。



丁付　「□、□、四…十四」。

挿絵　十頁分（見開き五）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十二ウ―十三オ。一部に彩色加筆あり。

絵師　奥村政信ヵ。

節譜　なし。句切もない。

備考　『説経正本集　第二』の二十五番解題に、尾崎久弥氏蔵の十七行本が紹介されているが、本書はこの尾崎本と同板本である。天満八太夫の所謂鱗形屋板半紙本シリーズの一本。

88　中将姫御本地

装幀　半紙本。一冊。二二・〇×一五・七。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　一九・四×一三・七。

内題　「中將姫御本地」。下に「初段」。

所属　天満八太夫（推定）。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

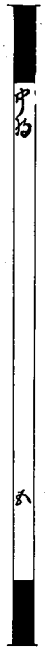
刊記　終丁裏本文末に「右者大夫直之正本也」大傳馬三丁目　鱗形屋孫兵衛新板」とある。

板元　江戸、鱗形屋孫兵衛板。

行数　十七行。

丁数　十三丁。

板心　上方に「中將」、下方に丁付。板心の形式は一種。



丁付　「一…十三」。

挿絵　十二頁分（見開き六）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、五ウ―六オ、七ウ―八オ、九ウ―十オ、十一ウ―十二オ。彩色加筆あり。

絵師　奥村政信ヵ。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『説経正本集　第三』の四十五番に採用された本である。天満八太夫の所謂鱗形屋半紙本シリーズの一本。

89　熊野之御本地

装幀　半紙本。一冊。二二・一×一五・七。改装。

表紙　替表紙

題簽　欠。現在は「熊野の御本地」と墨書した布地を貼る。

匡郭　一九・三×一四・五。

内題　「熊野之御本地」。下に「初段」。

所属　天満八太夫（推定）。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

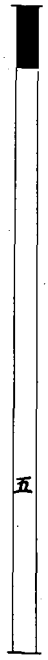
刊記　終丁裏本文末に「右者大夫直之正本を以写之畢」大傳馬三町め」うろこ形や孫兵衛新板」とある。

板元　江戸、うろこ形や孫兵衛。

行数　十七行。

丁数　十三丁。乱丁がある。

板心　下方に丁付。板心の形式は一種。



丁付　「二…九、十一…十三、十、十四」。

挿絵　十頁分（見開き五）　一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十二―十三オ。彩色加筆あり。

絵師　奥村政信ヵ。

節譜　なし。句切もない。

備考　『説経正本集　第一』の七番に東大霞亭文庫本が採用されており、本書はその同板本として解題で校訂者架蔵として触れられている本で、校訂用に使われている。本書には乱丁があり、実丁の八丁の次にあるべき丁（丁付「十」）が十二丁目に入っている。天満八太夫の所謂鱗形屋半紙本シリーズの一本。

90　ほん天こく

装幀　半紙本。一冊。二一・八×一五・七。改装総裏打。

表紙　元表紙ヵ。黒無地。

題簽　欠。

匡郭　一九・六×一四・六。

内題　「ほん天こく」。下に「初段」。

所属　天満八太夫（推定）。

段数　六段。初段、二たんめ、三だんめ、四たんめ…六たんめ、と各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「右此本者大夫直傳之正本を以無誤うつし」令板行者也」大傳馬三丁目」うろこ形や孫兵衛新板」とある。

板元　江戸、うろこ形や孫兵衛。

行数　十七行。

丁数　十三丁。

板心　上方に「ほん」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「初ノ二、三…十四」。

挿絵　十頁分（見開き五）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十二ウ―十三オ。

絵師　奥村政信ヵ。

節譜　なし。句切もない。

備考　『説経正本集　第三』の三十七番『ぼん天こく』の解題に本書は紹介されており、中本原刻本（貞享二年刊ヵ）の構図を借りて鳥居清信が説経半紙本シリーズの一として挿絵を描き、鱗形屋で刊行したものと記す。横山重氏は水谷不倒氏説として、この一連の半紙本シリーズの画家を鳥居清信とされるが、このシリーズの一本『あいこの若』画中に「奥村政信圖」とあり、またその画風からしても奥村政信の絵と見るのが妥当ではあるまいか。

91　かるかや道心

装幀　半紙本。一冊。二二・二×一五・五。改装。

表紙　元表紙。黒無地。

題簽　欠。

匡郭　一九・三×一四・〇。

内題　「かるかや道心」。下に「初段」。

所属　天満八太夫系。

段数　六段。初段、二たんめ…六たんめと、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「大傳馬三町目」うろこ形屋孫兵衛開刊」とある。

板元　江戸、うろこ形屋孫兵衛。

行数　十八行。

丁数　十四丁。

板心　上方に「かるかや　下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…十四」。

挿絵　十頁分（見開き五）。一ウ―二オ、三ウ―四オ、六ウ―七オ、九ウ―十オ、十二ウ―十三オ。一部に彩色加筆あり。

絵師　奥村政信ヵ。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は本目録八十四番、天満孫四郎正本鱗形屋十七行本を、十八行に直し、丁数を縮めたもの。挿絵も同様の図柄を採用し、奥村派の画家に描かせたものと思われる。大凡両者は同文であるが、少しく異同もある。

92　しだの小太郎

装幀　半紙本。一冊。二二・五×一五・八。

表紙　元表紙。藍色無地。

題簽　欠。現在は「志田小太郎」、下に「説経節」佐渡七太夫正本」と墨書した紙を貼る。横山氏解題によれば、水谷不倒氏筆。

匡郭　なし。初丁表の最終行、本文寸法一八・七。

内題　「しだの小太郎」。下に「初段」。尾題には「出世信田小太郎終」とある。

所属　佐渡七太夫豊孝。

段数　六段。初段、第二…第六と、各段の始め下方に記す。

刊記　裏表紙見返しに「右此説經之章指者」因從古來無之而以今」般秘密之章句令改版」者也」板本　惣兵衛」跡よりしやうさし段々出し申候」とある。

板元　江戸、惣兵衛。

行数　八行。

丁数　目録一丁。本文四十四丁。奥附半丁。

板心　上方に「しだ」「した」、下方に丁付。

丁付　本文「一…三十六、三十七八、三十九…四十五終」。

挿絵　なし。

節譜　佐渡七太夫流の墨譜・文字譜。句切は白丸点。

備考　本書は『説経正本集　第三』の三十五番に採用された本である。佐渡七太夫豊孝の序文のある、半紙本シリーズの一本で、享保三年初春から四年八月までの間の刊行であろう。

93　鎌田兵衛政清

装幀　半紙本。一冊。二一・八×一五・七。改装。

表紙　元表紙。藍色無地。

題簽　欠。

匡郭　なし。本文初丁の最終行、本文寸法一八・二。

内題　「鎌田兵衛政清」。下に「初段」。

所属　佐渡七太夫豊孝。

段数　六段。初段、第二…第六と、各段の始め下方に記す。

刊記　終丁裏本文末に「享保四己亥歳八月吉祥日」とある。また裏表紙見返しに「右此説經之章指者」因從古來無之而以今」般秘密之章句令改版」者也」「板本」惣兵衛」跡よりしやうさし段々出し申候」とある。

板元　江戸、惣兵衛。

行数　九行。

丁数　目録一丁、本文四十八丁、奥附半丁。

板心　上方に「ふしみ」、下方に丁付。

丁付　本文「壹、二…四十八」。

挿絵　なし。

節譜　佐渡七太夫流の墨譜・文字譜。句切は白丸点。

備考　『説経正本集　第三』の三十三番に採用された本である。佐渡七太夫豊孝の序文のある、半紙本シリーズの一本。

94　ほうぞうびく

装幀　半紙本。一冊。二二・三×一六・〇。

表紙　元表紙。藍色無地。

題簽　元題簽。上に「ほうざうびく」と大きく記し、下に「佐渡七太夫」直傳」と二行。表紙中央に貼る。

匡郭　なし。初丁表の最終行、本文寸法一八・四。

内題　「ほうぞうびく」。下に「第壹」。四十七丁裏の本文末には「法蔵比丘終」とある。

所属　佐渡七太夫豊孝。

段数　六段。第壹…第六、と各段の始め下方に記す。

刊記　裏表紙見返しに「右此説經之章指者」因從古來無之而以今般秘密之章句令改板者也」と大きく出し、「三右衛門」長兵衛」安兵衛」五兵衛」宗兵衛」板本」とある。その上に「跡よりしやうさし」段々出シ申候」と二行。

板元　江戸、三右衛門、長兵衛、安兵衛、五兵衛、宗兵衛。

行数　第一丁より第七丁表までと、四十五ウ、四十六オの二頁分とは八行。その他は九行。

丁数　目録一丁、本文四十六丁、奥附半丁。

板心　上方に「ほうそう」、下方に丁付。

丁付　本文「壹、二…三十、三十壹之五、三十六…五十終」。序と奥附には丁付がない。

挿絵　なし。

節譜　佐渡七太夫流の墨譜・文字譜。句切は白丸点。

備考　本書は『説経正本集　第二』の二十六番に採用された本であり、正本集では前島春三氏蔵本となっている。佐渡七太夫豊孝の序文のある半紙本シリーズの一本。

95　梵天国

装幀　写本。一冊。雁皮紙の袋綴。二〇・一×一三・五。

表紙　元表紙。茶色無地。

題簽　なし。

匡郭　なし。初丁表の最終行、本文寸法一七・〇。

内題　「梵天国」。

所属　未詳。

段数　六段。二段…六段と、各段の始めに記す。各段とも、用紙を改めて別丁の始めからはじめる。初段の記入はない。

刊記　なし。

行数　六行。

丁数　五十八丁。

丁付　なし。

挿絵　なし。

節譜　なし。句切もない。

備考　本書は『説経正本集　第三』の附録の十番に採用された本である。正本集の解題には、旧蔵者桑名仏眼院で入札せしめた時の札と推定される白紙があった事が記されているが、現在はない。本書の年代については慶安前後とする説があるが、その序詞のあり方が寛文初年頃から始まる古浄瑠璃風のものである点などから、万治頃か寛文初年頃の写本と考えられる。詳細は右正本集第三付稿「梵天国の諸本」参照。

96　さんせう太夫物語

装幀　大本。中・下巻二冊。二六・七×一八・八。改装総裏打。

表紙　元表紙。藍無地。

題簽　中巻には元題簽が残る。重郭。上に「ゑ入」と横書きし、界線をおいて「さんせう太夫　中」と大書する（口絵参照）。下巻は題簽を欠き、「さんせう太夫物語　下」と墨書。

匡郭　二〇・二×一五・二。

内題　「さんせう太夫物語　中（下）」。

所属　未詳。

段数　段数表記はない。

刊記　下巻の終丁表本文末に「霸や喜右衛問開板」とある。

板元　鶴屋喜右衛問。江戸板。

行数　十四行。

丁数　中巻、十六丁。下巻、十四丁半。

板心　上方に「さんせう大夫中（下）」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　中「一…十六」、下「一、□、三、□、五…七、□、九…十三、□、十五」。

挿絵　中巻八頁分（見開き一、片面六）。二ウ―三オ、五オ、七オ、九オ、十一オ、十三オ、十五ウ。但し見開きは、別々の構図。下巻十頁分（見開き三、片面四）。一ウ―二オ、四ウ―五オ、七オ、九オ、十ウ、十二オ、十三ウ―十四オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切は黒丸点。

備考　本書は『説経正本集　第一』の附録一に採用された本である。江戸板草子として作られたもので、同種のものに『おぐり物語』（中・下巻）鶴屋喜右衛門板（十四行）がある。共に寛文末頃の刊行と推定される。

97　熊野之権現記（こすいてん）

装幀　小本。一冊。一五・七×一〇・九。

表紙　元表紙。黒地に稲妻の空押。

題簽　欠。

匡郭　一四・四×一〇・一。

内題　「熊野之権現記」。下に「太夫正本也」。更にその左に「こすいてん　初段」。

所属　未詳。

段数　六段ヵ。「こすいてん　初段」、「こすい天　三段目」、「こすい天　四段目」、「こすい天　五段目」とあるが、二段目とあるべきところ、及び六段目が欠けている。

刊記　終丁表最終行に「萬治元年十月吉日　さうしや九兵衛板」とある。

板元　さうしや九兵衛。上方板。

行数　十四行。

丁数　七丁半。落丁本。

板心　上方に「こすい天」、下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一、五…十、十二」。

挿絵　三頁分（見開き一、片面一）。二オ、五ウ―六オ。

絵師　未詳。

節譜　なし。句切もない。

備考　『説経正本集　第一』八番『ごすいでん』の解題附記に、校訂者蔵として紹介されているのが本書である。第一丁と巻末の半丁は、同書に翻刻されている。本書は初丁に小破損があり、初丁と二丁目の間に三丁分と、七丁と八丁目の間に一丁分の落丁がある。

本書の性格について、右解題で説経正本（佐渡七太夫豊孝）と大体類似し、筋を簡単にしたものと述べられているが、また、これだけで説経正本と断定出来ないと慎重に記しておられる。たしかに、古浄瑠璃系との関連も十分考え得る。なお、この書の書型が浄瑠璃本・説経本の中型本のそれと比べて相当小さく、小本に近い。また省略の甚だしいもので、本書は正本とは記しているが、上方の子供絵本的な性格の書ではあるまいか。

98 〔さかたのきんひら〕

装幀　中形本。一冊。一八・三×一四・八。改装総裏打。

表紙　替表紙。

題簽　欠。現在は「さかたのきんひら」と墨書した紙を表紙左上に貼る。

匡郭　一六・二×一二・二。

内題　なし。

所属　未詳。

段数　段分けはない。

刊記　巻末落丁のため不明。

板元　未詳。江戸板。

丁数　五丁。落丁本。

板心　下方に丁付。板心の形式は一種。

丁付　「一…五」。

挿絵　五頁分（見開き四、片面一）。彩色加筆あり。各図には各々簡単な説明が付いている。

絵師　未詳。

備考　本書は著名な金平物の作品の中から、名場面の絵を一図ずつ集めた絵本であろう。板式・挿絵から寛文頃のものと推定される（口絵参照）。

各絵に付けられている説明は次の通り。

（一オ）「さかたのきんひら」とし神より」ぎよはいを」下さる」。

（二オ）「此きんひらはくわだんは」いらぬ」たゞくひがすきた」。

（二ウ）「すいさん」なり」きんひら」もはや」やらぬぞ」。にげよ」〳〵」。

（三オ）「おのれらひしや〳〵に」して」やらふ」。

（三ウ）「きんひらとはいわせぬ」ひとくちに」くわんじと」くわふ」。

（四オ）「これは」いばらきが」うつし」だな」。

（四ウ）「どてぶしも」おもしろい」。

（五オ）「おちばをちよ物」いろあるさとへ」おちて女良さまと」ちぎろもの」。

一オと五オはそれぞれ片面図、あとは見開き図となっている。二オ、二ウは『公平花だんやふり』の図と思われるが、あとは未詳。

99 〔おとりくとき〕

装幀　中形本。一冊。一八・七×一三・二。改装総裏打。

表紙　元表紙。朱色地に井桁の空押。

題簽　元題簽。重郭。上に「おとり」くとき」と二行。その下、二段に分けて内容の十種の揃い物を記す。上段「▲にた物そろへ・▲かさりそろへ・▲なかい物そろへ・▲うをつくし・▲まちつくし」、下段「▲たいないさかし・▲かたは物そろへ・▲なり物そろへ・▲うす物そろへ・▲あかい物そろへ」。界線をおいて下に「二条通」寺町」かとや」喜右衛門」。と四行。（ロ絵参照）。

内題　なし。

匡郭　重郭。外側一七・〇×一二・三。内側一六・五×一二・二。

段数　段数表記はない。「にたものぞろへ」、「五月せつくかさりぞろへ」、「ながいものぞろへ」、「うみさかなぞろへ」、「らくやう町づくし」、「たいないさがし喜内正本」、「あかい物ぞろへ」と各々始めに一行分で記す。但し「たいないさがし喜内正本」は二行分で記す。題簽の内容からみても「あかい物ぞろへ」の前に落丁があり、「かたは物そろへ」、「なり物そろへ」、「うす物そろへ」はない。

刊記　終丁裏本文末に「寛文三癸卯年三月吉日」とある。

板元　京、喜右衛門。

行数　十四行。

丁数　六丁。但し五ウの半丁が欠落し、丁付からみて以下二丁分が落丁。

板心　上方に「おとり」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一・四・五・六丁）。ロ（二・三丁）。

丁付　「八…十、下十□、十二、十五」。

挿絵　なし。

節譜　「たいないさかし」に地、「あかい物ぞろへ」にシテ。句切はない。

備考　万治三年七月刊『萬歳躍』、「友甫流躍くどき」に次ぐ古刊のおどりくどき集。「たいないさかし」に喜内正本と見える。「高橋蔵書」・「このぬしせんくわ」の印記があり高橋仙果旧蔵本。

100　松波少将通車

装幀　半紙本。一冊。二二・二×一六・三。改装。

表紙　替表紙。

題簽　欠。

匡郭　二〇・四×一五・三。

内題　「松波少将通車」。上に「第一」、下に「村山三番続」とあ

所属　京、村山座狂言本。

巻数　三番続。第一…第三と、各巻の始め上方に記す。

刊記　終丁表本文末に、「八文字屋八左衛門新板」とある。

板元　京、八文字屋八左衛門。

行数　十五行。

丁数　十一丁半。表紙見返しに役人替名半丁。

板心　上方に「かよひ」、下方に丁付。板心の形式は二種。イ（一丁）。ロ（二…十一丁）。

丁付　「三…十四」。（最終丁ウを表紙見返しに貼付）

挿絵　七頁分（見開き三、片面一）。一ウ―二オ、五オ、七ウ―八オ、十ウ―十一オ。

絵師　未詳。

句切　黒丸点。

備考　本文庫中ただ一点の歌舞伎狂言本。『古典文庫』第四〇九冊の「上方狂言本　七」（土田衛編）に本書が翻刻されている。元禄四年度上演。

索引

（書名は五十音順、数字は目録番号を表わす）

あ

あいこの若　74
あふひのうへ　34
阿弥陀胸割　75
石ばし山　60
いし山もんだう　13
一心二かびやく道　23
〔いぶき山〕　29
大友のまとり　15
〔大友真鳥〕　69
翁竹集　46
〔をくり〕　72
おぐり判官　73
〔おとりくとき〕　99

か

かいぢん八嶋　33
月界長者　12
〔かつらき〕　47
鎌田兵衛政清　93
かるかや道心　84
かるかや道心　91
〔甘楽太夫〕　3
義経記初巻　9
紀三井寺開基　35
清水の御本地　49
きりかね　61
きりかね　62
金平かふとろん　70
熊坂長はん　11
熊野之御本地　89
熊野之権現記　97
けいせい八花形　41
源氏万歳　57
〔こすいてん〕　97
伍太力菩薩　78
こ大ぶ　3
ごわうのひめ　22

さ

〔さかたのきんひら〕　98
坂上田村丸誕生記　51
〔三社託宣〕　68
さんせう大夫　82
さんせう太夫物語　96
しだの小太郎　92
四天王若さかり　52
しのたづまつりぎつね　28
しやかの御本地　85
〔しやか八さう記〕　21
聖徳太子御伝記　56
浄土さんたん記　19
〔新あつもり〕　32
しんとく丸　81
〔しんらんき〕　19
すみだ川　76

するたけ印問答 24
ぜんじそが 64
曽我扇八景 45
曽我花橘 43
曽我物語 59

た

大がらん宝物鏡 40
大福神弁才天御本地 80
太平記 66
高丸悪路王責 50
たけち合戦 54
たむら 5
ちうしやう 2
中将姫御本地 88
追加太平記 67
釼さんだん 63
天王寺彼岸中日 36
童子若さかり 55
とうだいき 1

な

なすの、いこん 16
なすの与一舟いこん 53

七小町 30
にしきど合戦 6
日本蓬萊山 37

は

毘沙門之本地 79
ひだのたくみ 27
〔伏見常盤〕 9
ふせや 4
平治合戦 26
〔弁慶京みやげ〕 39
ほうざうびく 83
ほう蔵比丘 87
ほうぞうびく 94
北条五代記 65
ほうねんき 20
〔ぼん天こく〕 10
〔ほん天こく〕 77
ほん天こく 90
梵天国 95

ま

松風村雨 25
〔松風村雨束帯鑑〕 44

松波少将通車 100
松浦五郎景近 31
御館権太郎 8
みはら物語 7

や

ゆいせき諍 58
動稚高麗責 38
ゆり若大じん 86
義経将棊経 42
よりちか童子 71
頼義金剛山合戦 14

ら

〔頼光跡目論〕 48
〔頼光勇力諍〕 52

わ

わだざかもり 18
渡辺綱三田合戦 17

赤木文庫（古浄瑠璃）目録

昭和60年3月20日　発行

編集発行　大阪大学附属図書館
大阪府豊中市待兼山町1番1号
TEL　豊中(〇六)八四四―一一五一(代表)

印刷所　阪急相互印刷株式会社
大阪府豊中市宝山町17番1号